

# 東京瓊林

No.148  
2020.3



「長崎の夜景」



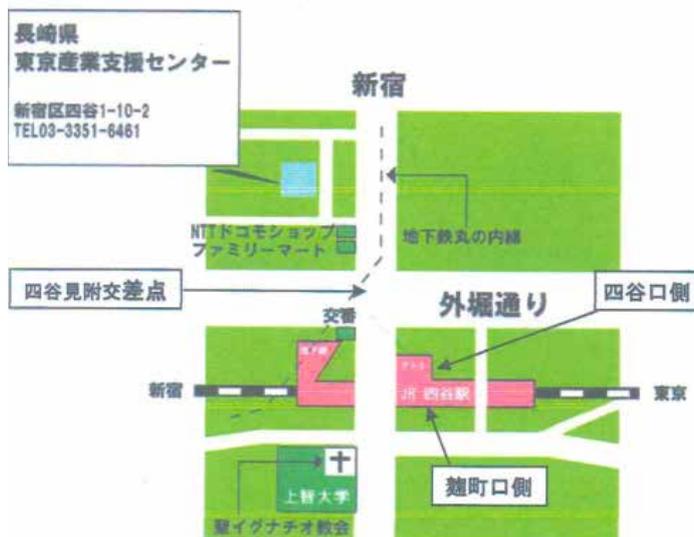
瓊林会 東京支部

# 長崎高等商業学校 校歌

牛島 秀雄 作詩 島村 吉門 作曲

<p>5 三年鍛へし此の腕 覇者の冠飾るべく 希望輝く星影に</p>	<p>4 桂の水棹蘭の槳 行手を啓す商神の 寄せ来る権力集う富</p>	<p>3 凶南の翼収めつつ 健児五百の渾身に 香しき哉校風は</p>	<p>2 扇嶼の沖に沈む陽の 龜嶺の山の夕ぐもに 見よ靈鶴の羽ばたきて</p>	<p>1 暁星淡く瞬きて 海高鳴りて新潮に 此処の水門に運びたる</p>
<p>競ひの場に矛執れば 橄欖いまや若葉はぬ いざや謳はむ国の榮</p>	<p>月の御船に打ち乗りて 指す俣に漕ぎ行けば 是ぞ吾儕が使命なる</p>	<p>扶揺万里の風を待つ 自疆の精神漲りて 虚空に高く薫るなり</p>	<p>彼方黄金の波立ちて 奇しき福利の響あり 翔けるは何処西の空</p>	<p>金鷄夢を破るとき 文華を西の国人が 光榮ある瓊の浦曲哉</p>

## 瓊林会東京支部所在地



## 瓊林会 東京支部

〒160-0004  
東京都新宿区四谷 1-10-2  
長崎県東京産業支援センター 301  
TEL : 03-6240-0532  
FAX : 03-6240-0531  
E-mail : info@tokyo-keirin.jp

<http://tokyo-keirin.jp>

【facebook】  
<https://www.facebook.com/keirinkaitokyo/>

### 【アクセス】

- ・JR 中央線・JR 総武線 「四ツ谷駅」 四谷口 徒歩 3分
- ・地下鉄 東京メトロ丸の内 「四ツ谷駅」 赤坂口 徒歩 3分
- ・地下鉄 東京メトロ南北線 「四ツ谷駅」 四谷口 徒歩 3分



## 巻 頭 言



支部長 田中健一

「光陰矢のごとし」と言いますが、令和元年は早いものであつという間に終わり、令和も2年目を迎えました。我々の母校の前身である長崎高商は明治48年に創設されたことから、現在の長崎大学経済学部に至るまでに、明治、大正、昭和、平成と四つの時代を経て五つ目の時代に入ったこととなります。西暦で言うと1905年から2020年ですが、歴史を元号で見ると何か感慨深いものがあります。今年は長崎高商が創設されて115年を迎えます。瓊林会は法人組織になって85年、公益社団法人へ移行して6年が経ちました。瓊林会は現在、公益活動と同窓会事業の2本柱で運営しています。公益活動につきましては、学生、先生、一般の方々を対象に様々な公益事業を実施しています。その内容は毎月末のメールマガジンでもご紹介しておりますので、ご登録されていない方は瓊林会ホームページから是非ご登録ください。

同窓会事業につきましては、全国21支部が様々な企画を展開していますが、東京支部もこの1年間で、昨年7月に総会、4月と10月にゴルフ会、10月に若手の会、11月にボジョレーヌーボーの会、今年1月に金融市場勉強会を開催しました。8月には中央寮歌祭が開催され、東京支部の有志が参加しました。また友の会は囲碁の会、俳句会、談話サロン等を定期的に開催し、マンドリン倶楽部も演奏会を12月に開催しました。瓊林会の絆は、このような活動への参加によって更に深まるものと思われてなりません。新しい年度におきましても、様々な行事を企画していきたいと思っておりますので、引き続き積極的なご参加をお願い致します。

昨年も巻頭言で申し上げましたが、瓊林会は会社組織には見られない素晴らしい組織です。会員には20代から90代までの70年間、約3世代にわたる方々がいます。たいへん長い縦の糸です。様々な会合での出会いを通じて、後輩は先輩から様々な経験を、先輩は後輩から新しいことをそれぞれ学ぶことができます。また会員はあらゆる業種で活躍しており、生きた情報交換も可能です。たいへん長い横の糸です。この縦の糸と横の糸が織りなしているからこそ、瓊林会は素晴らしい組織になっているのだと思います。今後も瓊林会をより実りある組織にするためにも、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

東京オリンピック・パラリンピックの開催が、いよいよ間近に迫ってきました。今夏の東京、日本はその熱気で更に暑い夏を迎えそうです。皆様の益々のご隆盛をお祈り致します。



# 『東京瓊林』第148号 目次

瓊林会東京支部の案内図／長崎高等商業学校校歌	表紙裏面
巻頭言／瓊林会東京支部支部長 田中 健一	
2019年度瓊林会東京支部通常総会のご案内	1
第1回 東京瓊林サロン(ボージョレ・ヌーヴォーの会)	2
第2回 東京瓊林サロン(講演:経済展望)	3
第42回 東京瓊林ゴルフ大会 / 佐藤 隆一 学21	7

## 投稿記事

私の山登り / 徳重 克己 学18	8
「キャリアデザイン」講座の講義を振り返って / 安野 倫男 学35	11
花と歴史の町大村市 / 古川 朋博 学44	13
11クラブ東京支部の会合 / 石田 昌吉 学11	17
東京互輪会 新年会の記 / 秋岡 孝也 学12	18
「むつごろう会」新年会 / 百武 兼義 学21	20
「長籠会」新年会 / 堀田 毅 学35	21
第13回 長崎マンドリンアンサンブルファミリーコンサート / 川口 恒夫 学12	22
東京瓊林会俳句と新年会写真 / 城 善政 学11	23
H30年瓊林囲碁大会開催について / 高本 正 学12	24
「啓林友の会」最近の活動について / 小川 渚 学9	25
慶 弔	29
平成30年度支部への寄付者ご氏名、会費納入者一覧	30
瓊林会東京支部 役員体制	35
事務局からのお願い	36
編集後記	37

広 告	38
-----	----

岡三証券

株式会社 ONE HUNDRED

## 平成31年度瓊林会東京支部通常総会のご案内

1. 日時：令和2年6月6日(土) 12:00 開会～14:00 閉会(受付11:30～)
  2. 会場：松本楼(日比谷)  
東京都千代田区日比谷公園1-2  
TEL：03-3503-1451 / 詳細URL：<http://www.matsumotoro.co.jp>
  3. 交通：地下鉄メトロ日比谷・丸ノ内線「霞が関駅」B2/B1A/B3A 出口  
地下鉄メトロ千代田・日比谷・三田線「日比谷駅」A14 出口  
JR 山手線・京浜東北線「有楽町駅」日比谷口
  4. 次第：立席形式での会を予定しています。椅子の用意もあります。
- 11:30 ～ 受付開始  
 12:00 ～ 12:30 支部運営報告・議事・来賓ご挨拶等  
           第1号議案 令和元年度事業報告並びに収支計算承認の件  
           第2号議案 令和2年度事業計画並びに収支予算書(案)承認の件  
 12:30 ～ 13:50 懇親会(福引大会を予定)  
 13:50 ～ 14:00 高商校歌斉唱  
 14:00 閉会
5. 会費：5,000円、夫婦同伴10,000円  
学68回卒(新卒者)は無料
  6. その他：総会運営は、学43回、53回、63回が担当です。  
ご協力よろしくお願いいたします。

### 【会場案内図】



### 【お願い】

出席・欠席に関わらず、本誌と同封の返信用はがきに所定事項をご記入の上、

2020年5月22日(金)まで

に投函ください

(欠席の場合は、必ず委任状に自筆でご署名またはご捺印ください。)

切手は不要です(料金受取人払い)

瓊林会東京支部ホームページ又はメールでも、回答できます。

HP:<http://tokyo-keirin.jp>

E-Mail：[info@tokyo-keirin.jp](mailto:info@tokyo-keirin.jp)

## 令和元年度東京支部通常総会の報告

去る 2019 年 7 月 5 日（金）、令和元年度瓊林会東京支部通常総会を開催致しました。  
ご出席いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

開催日：令和元年 7 月 5 日（金） 18:00 ～ 20:30

会場：大手町サンケイプラザ（千代田区大手町 1-7-2）

### ■式次第

1. 開会 18 時 司会 吉田 綱一郎（学 21）
2. 物故者への黙祷
3. 来賓紹介 長崎大学 学長 河野 茂氏  
経済学部 学部長 深浦 厚之氏  
瓊林会会長 田中健一氏 他
4. 田中支部長挨拶
5. 議題（議長 田中支部長）  
第 1 議案 平成 30 年度事業報告及び収支計算書承認の件  
第 2 議案 令和元年度事業計画及び収支予算書（案）承認の件  
第 3 議案 役員改選の件
6. 来賓ご挨拶  
河野 茂様（長崎大学 学長）  
深浦 厚之様（経済学部 学部長）  
中村法道長崎県知事ご祝辞披露

### ■懇親会の部（司会：安野倫男 学 35 / 中村奈美 院 16）

7. 乾杯 田中支部長様（学 2 1）
8. 新卒会員（学 6 7）紹介
9. 福引大会
10. 高商歌「暁星淡く瞬きて」合唱
11. 万歳三唱 松尾 榮様（学 3）



## 平成30年度東京支部通常総会出席者

学03	浦川 延喜	学20	井口 篤子	学35	白井 のぞみ
学03	松尾 栄	学20	山内 朗	学35	堀田 毅
学03	中山 琢磨	学21	小野 等	学35	林田 圭史
学05	山田 道弘	学21	佐藤 隆一	学35	森廣 政邦
学08	林 英男	学21	吉田 綱一朗	学36	居川 浩嗣
学08	三浦 康寿	学22	坂本 修一	学37	窪田 昌洋
学09	伊津野 平	学23	林 俊也	同伴	窪田 幸子
学09	小川 渚	学23	松尾 肇	学39	香山 明子
学09	大久保 哲夫	学23	渡辺 一博	学39	島津 厚子
学10	光永 久之	学24	井上 隆	同伴	Mr.C.Bucharaman
学11	石田 昌吉	学24	大串 憲一	学39	村田 瑞枝
学11	城 善政	学24	金野 正英	学42	藤田 雄一
学12	稲山 清紀	学24	吉田 均	学54	山田 真人
学12	川口 恒夫	学25	荒川 俊彦	学54	山崎 康史
学12	高本 正	学25	安部 政信	学54	金澤 孝典
学12	西 宏	学25	小城 政文	学57	岩永 浩平
学15	佐々木 和行	学25	三木 修	学67	野本 智紀
学16	大塚 保	学25	宮崎 一郎	院1	税所 哲郎
学16	中島 純忠	学25	山本 重則	院16	中村 奈美
学16	東 幸彦	学25	山室 武	院21	山崎 哲雄
学16	中山 作富	学27	森 雅昭	来賓	田中 健一
学16	前田 正昭	学29	国広 昭彦	来賓	河野 茂
学16	山内 裕介	学29	堀内 宇	来賓	深浦 厚之
学18	伊藤 正	学29	長岡 健	来賓	本田 和人
学18	柿田 寛	学29	吉開 孝人	来賓	和田木 詳広
学18	田中 洋	学30	内田 豊	来賓	梅澤 泰紀
学18	山野 澄雄	学30	国清 敏之	学24	江村 遵
学18	吉田 一久	学30	木村 直樹		
学19	菅原 義文	学31	井上 勝康		
学19	江崎 秀昭	学34	前田 隆		
学19	川西 忠	学34	米ヶ田 昭弘		
学19	中村 光昭	学35	安野 倫男		
学19	松原 広輝	学35	石井 正敏		



## 第1回東京瓊林サロンの報告

令和元年9月27日(金)、「東京瓊林サロン(若手の会)」～特別なスパークリング日本酒、「a w a 酒」を楽しむ～を開催致しました。

近年の日本酒トレンドを代表する「スパークリング日本酒」は、まだご存知ない方も多いと思いますが、ここ数年で市場が急拡大しているお酒です。

今回は「スパークリング日本酒」の中でも、厳格な基準をクリアした「a w a 酒」を楽しんで頂きました。「a w a 酒協会」が品質認定し、人気が高いスパークリング日本酒を5種類用意し、飲み比べを行いました。

お酒の銘柄は以下の通りです。

	酒造会社名	所在地	銘柄名
1	滝澤酒造株式会社	埼玉県深谷市	菊泉ひとすじ
2	株式会社南都美人	岩手県二戸市	南都美人あわせけ
3	永井酒造株式会社	群馬県川場町	MIZUBASHO PURE
4	山梨銘醸株式会社	山梨県北杜町	七賢 星ノ極
5	天山酒造株式会社	佐賀県小城市	天山スパークリング



「スパークリング日本酒」はシュワツとした発泡性のある日本酒です。上品な香り、酸味が特徴で酒造会社によって微妙に味が違います。

今回の参加者は「スパークリング日本酒」が初めての方が殆どでした。よって、5種類の「スパークリング日本酒」をじっくりと飲み比べて頂きました。そして、どの銘柄が自分の好みか、どういう所が好きかという話題で大変盛り上がりました。

また、参加者皆さんの自己紹介、近況報告で懇親を深めることが出来ました。

特に学生時代の話(授業、部活、バイト等)をお聞きして、自分の学生時代を振り返り、懐かしく、もう一度あの頃の自分に戻れたら…。などと思いを馳せました(笑)。



## 第1回東京瓊林サロンの出席者

谷水久 (学 35)  
藤田雄一 (学 42)  
有延真之 (学 43)  
後田浩二 (学 43)  
松岡文志 (学 43)  
小野正芳 (学 45)  
金澤孝典 (学 54)  
岩永浩平 (学 57)  
杉山旭 (学 65)  
野本智紀 (学 67)  
田中支部長  
吉田副支部長  
堀内副支部長  
安野副支部長  
堀田副支部長  
中村副支部長  
小野事務局長  
(敬称略)



## 第 2 回東京瓊林サロン開催①

学 35 安野 倫男



11月22日(金)18:30～20:30に「ボジョレヌーボを飲む会」を開催しました。  
本来なら解禁日は11月21日(木)ですが、会議室が取れなく22日に開催しました。

田中支部長の短い挨拶後、早速スタートしました。まずはビールで乾杯、その後美味しいワインを皆で堪能しました。

参加者は21名で、学8～学67で賑やかに自己紹介を行い、とにかく和気藹々の雰囲気の中楽しい時間を過ごしました。



## 第 2 回東京瓊林サロン開催②

学 35 安野 倫男

### ■参加者（敬称略）

学 8 三浦 康寿  
学 9 伊津野 平  
学 12 川口 恒夫  
学 21 高本 正  
学 15 佐々木 和行  
学 16 前田 正昭  
学 16 中山 作富  
学 29 国広 昭彦  
学 29 合屋 隆司  
学 29 長岡 健  
学 42 藤田 雄一  
学 54 金澤 孝典  
学 57 岩永 浩平  
学 67 野本 智紀  
学 67 富安 恭佑

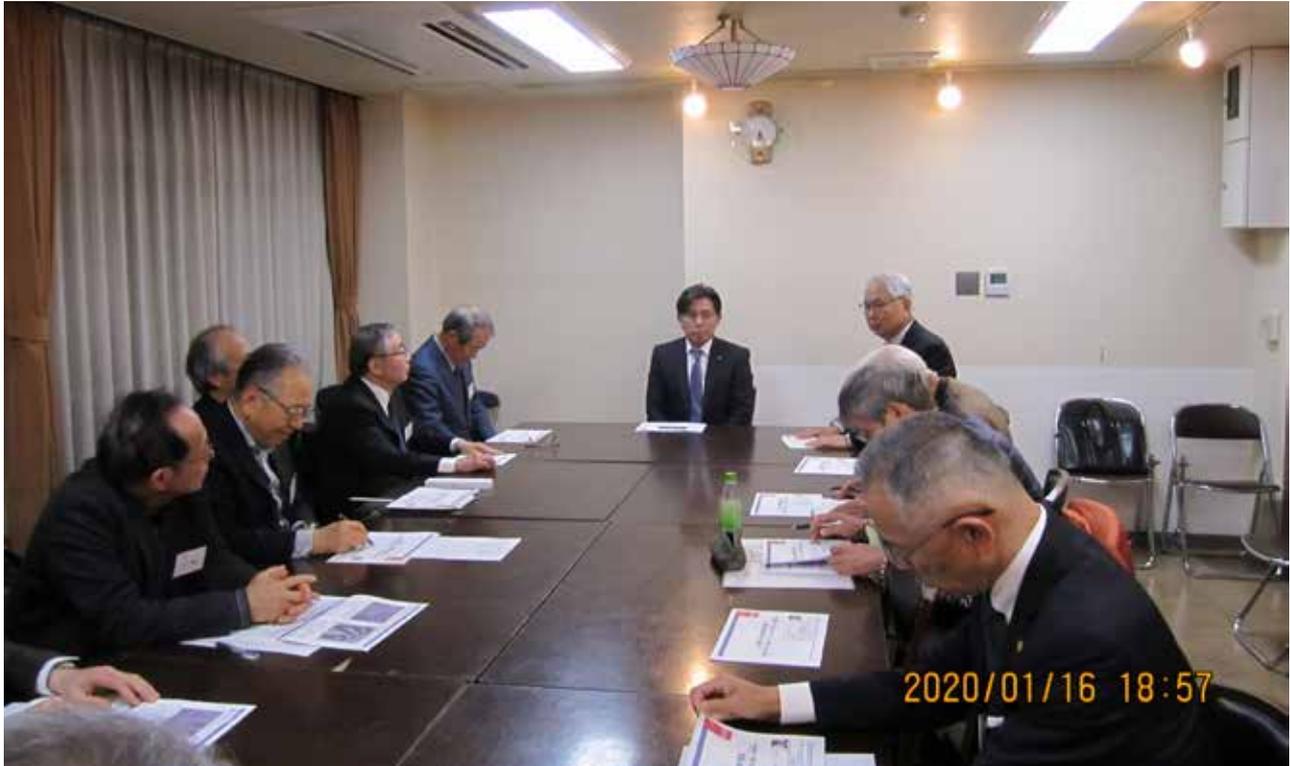
田中支部長  
吉田副支部長  
堀内副支部長  
堀田副支部長  
中村副支部長  
小野事務局長

安野倫男（学 35：講師）



## 第3回東京瓊林サロン講演の報告

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑



令和2年1月16日(木)に、第3回東京瓊林サロンを開催しました。  
講演後の質疑応答では活発な意見が交わされ有意義な時間を過ごせました。

3年連続で開催しましたが、来年もこの様な勉強会を実施したいと考えております。  
皆様方の積極的なご参加をお願い致します。

1. 日時：令和2年1月16日(木)
2. 会場：長崎県東京産業支援センター 会議室
3. 講師：愛宕 信康 岡三証券(株) チーフエコノミスト (元日本銀行)
4. 講演内容：日米経済と金融政策の展望  
—循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑—

### ■参加者 計20名(敬称略)

学9 伊津野 平	学24 井上 隆
学11 城 善政	学25 宮崎 一郎
学12 川口 恒夫	学29 堀内 宇(副支部長)
学15 佐々木 和行	学31 井上 勝康
学18 田中 洋	学31 原田 稔
学20 西橋 時男	学35 安野 倫男(副支部長)
学21 田中 健一(支部長)	学35 堀田 毅(副支部長)
学21 小野 等(事務局長)	学45 小野 将芳

## 第3回東京瓊林サロン講演①

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑

岡三証券の愛宕でございます。昨年も1月16日でしたので、ちょうど1年振りになります。改めまして、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

まず、資料の副題からご覧ください。今回も副題に私からのメッセージを込めております。簡単にご紹介しておきますと、最初の「循環」とは景気循環のことです。景気は必ず循環します。今年は景気循環から考えますと回復する年になります。

二つ目の「財政」とは、金融政策が限界を迎える中で各国の政策の軸足が財政に移っているということです。典型が日本で、今月大型の補正予算が成立することとなっています。

三つ目の「金融」は過剰流動性のことで、いわばジャブジャブのお金が現在の株高の背景にあります。「イベント」は端的に言えば東京オリンピック・パラリンピック、米国の大統領選挙です。それらがある年の株価は強い、というのが通り相場です。

次の「妙な流行語」とは「いかがわしい造語」と言っても良いのですが、最近「ニューノーマル」という言葉をお聞きになったことはございませんか。日本語で新常態と訳されたりしますが、「低成長」「低インフレ」「低金利」で特徴づけられ、米国株が買われるロジックになっています。私はすぐに90年代後半に流行った「ニューエコノミー」という言葉を思い出しましたが、いずれも理論的根拠の乏しい、如何にも危なっかしい言葉だと思います。ニューエコノミーが流行った後、「ドットコム・バブル」、日本語で「ITバブル」が発生したことは皆さんご承知の通りです。

最後の「地政学」は地政学リスクのことですが、まさに年始から緊迫化している米国とイランの関係です。91年の湾岸戦争、03年のイラク戦争では、ともに軍事行動に踏み切

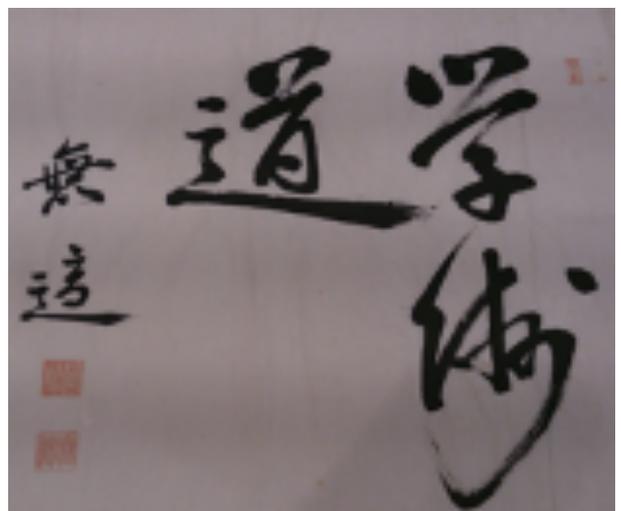
ったタイミングで株価と大統領支持率が上昇しています。もし、トランプ大統領が支持率アップのために軍事行動を利用しようと考えているとしたら、大変なことです。

さて、それでは資料の中身に進んでいきましょう。ここでは橋田邦彦という人物を紹介しています。私の故郷、鳥取が生んだ医学者、科学者であり、戦時中の文部大臣です。私の母方の実家の前に生家があり、橋田先生が幼少の頃は私の祖母が子守りをしていたそうがあります。



(一番左下が橋田邦彦・文部大臣)

実は、同じ地で住職をしていた私の祖父とも道元の研究を通じて親交があり、生前、祖父に贈られた書がこの写真になります。



## 第3回東京瓊林サロン講演②

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑

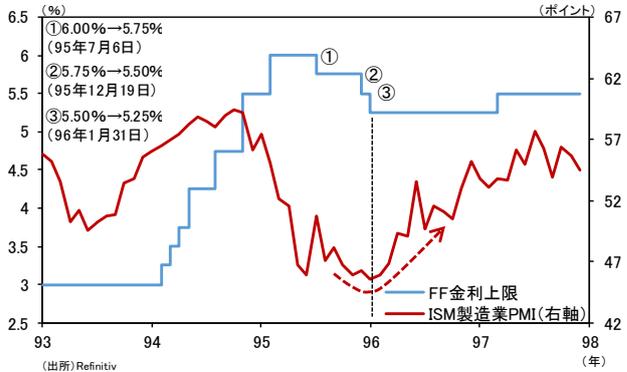
この「学術道」というのは橋田邦彦が残した有名な言葉ですが、私なりに咀嚼しますと、ある一側面だけ捉えて抽象化しても科学とは言えない。全ての事象には背景や原因があり、それらは人の行いの中に内面化されている。つまり、いろんなイベントが発生しますが、偶々ということは本来なくて、必ず普遍的な背景があるからこそ歴史は繰り返すわけで、先を考える上で過去を振り返ることは極めて重要だと、そう解釈できるように思います。そういう意味で橋田邦彦を紹介したわけですが、今日とはときどき過去を振り返りながらお話ししたいと思います。

昨年もご説明しましたが、米国では短期金利が長期金利を上回るとそのうち景気後退になると言われています。実際、去年の3月下旬に長短金利逆転が起き、景気後退懸念が高まりましたが、米連邦準備理事会 (FRB) の3度にわたる利下げもあり、いまでは景気回復期待から株が買われているという状況です。製造業の景況感にはグローバルに3年周期の循環があり、2013年、16年、19年が景気の底でした。したがって、今年は回復する年になります。

加えて、大統領選挙もありますから、金融政策は動かないというのが市場のコンセンサスです。つまり、過剰流動性が残るわけで、去年の11月下旬にニューヨークを訪問した際、この景気回復期待と過剰流動性を理由に投資家の株価に対する姿勢がとて強気化していることに驚きました。

最近、FRBのパウエル議長やクラリダ副議長が95-96年をよく引き合いに出します。下のグラフの青い折れ線が政策金利、赤い折れ線がISM製造業景況感指数、つまり景気を示しています。

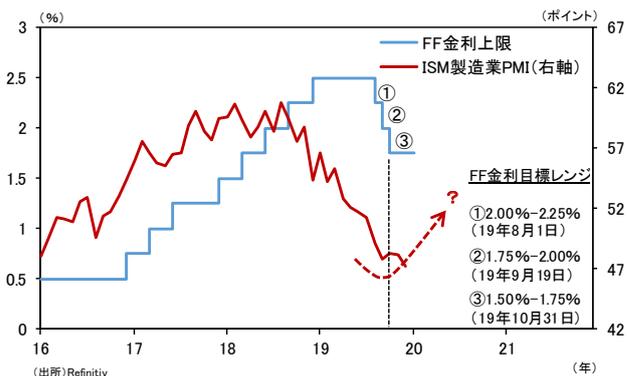
### 政策金利とISM製造業 (95-96年)



これを見ると、94年から連続して利上げが行われ、その結果、利上げ局面の終盤でISM製造業景況感指数が下落に転じているのが分かります。FRBはこうした景気の悪化を受け、①95年7月、②95年12月、③96年1月の3回、予防的利下げを実施しました。その後米国の景気は急速に回復して行きます。

下が最近の同じグラフですが、これまでのところ、金融政策とISM製造業景況感指数の経緯が酷似していることが分かります。17年初から連続して利上げが行われ、その終盤にISM製造業景況感指数が悪化に転じます。そして昨年夏にかけて景気後退懸念が強まったことから、FRBは①15年7月、②同9月、③同10月の3回、予防的利下げを実施しました。ここまで95-96年と酷似していますと、今年は96年と同じように景気が回復して行くのではないかと、期待せざるを得ません。

### 政策金利とISM製造業 (最近)



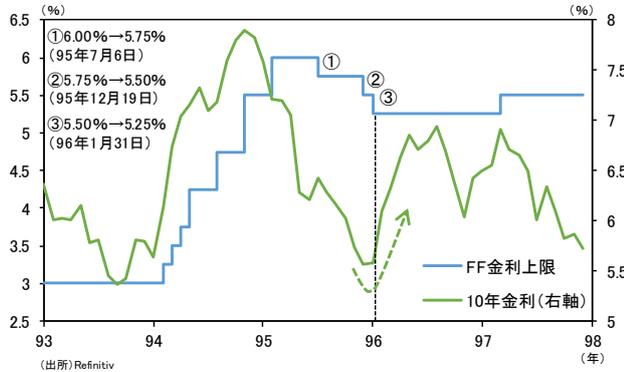
## 第3回東京瓊林サロン講演③

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑

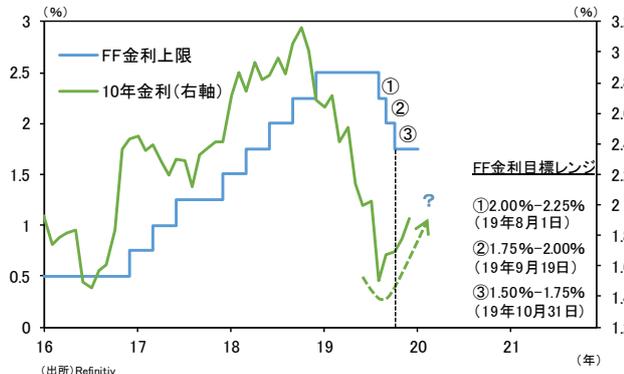
さらに、長期金利もよく似ています。下のグラフが政策金利と長期（10年）金利です。乱暴に言うと、長期金利は景気とインフレ期待で決まります。景気が拡大し、利上げが行われている間は上昇し、景気悪化とともに下落に転じている姿は、90年代と最近とでよく似ています。

ただし、今年、景気が回復したとしても、長期金利が96年のように急角度で上昇して行くと見ている市場参加者は殆どいません。大統領選挙で政策金利が上がらないという条件は96年と同じですが、先ほどご紹介した通り、インフレ率が上昇し難いため長期金利は96年ほど上昇しないと見られています。こうしたニューノーマルのロジックを背景に、市場の株価に対する見方が強気化しているというのが最近の状況です。

政策金利と10年金利（95-96年）



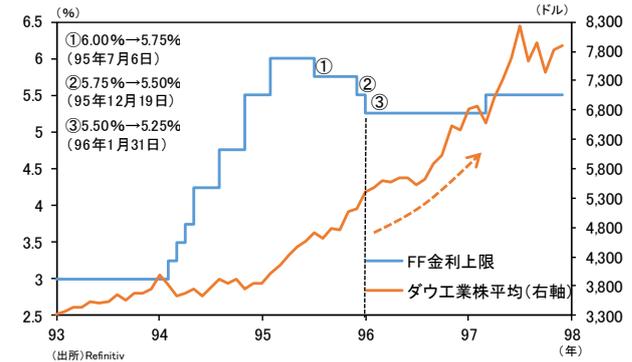
政策金利と10年金利（最近）



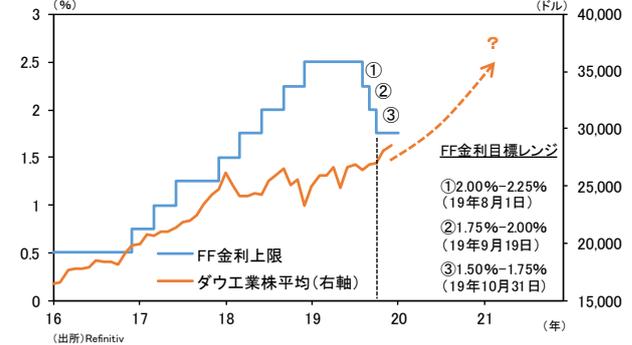
株価（NYダウ）については、96年1月に実施された3回目の利下げの後、97年半ばに

付けたピークまで、なんと57%も上昇しました。96年12月に当時のFRB議長だったグリーンズパンが「根拠なき熱狂」と警鐘を鳴らしたのは有名な話です。しかし、株価はその後ドットコム・バブルになっていきます。

政策金利とNYダウ（95-96年）



政策金利とNYダウ（最近）



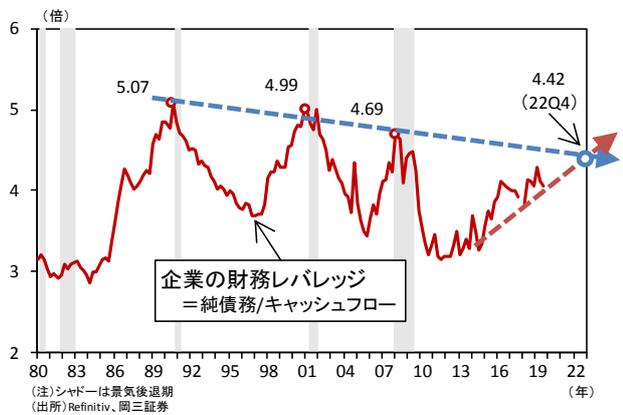
仮に、今回、3度目の利下げをした昨年10月からNYダウが57%上昇すると、なんと42,000ドルを超えることとなります。さすがにそこまでは・・・と誰しもが思うでしょうが、逆に言うと、96年1月の時点でその後の株価が57%も上昇すると、誰か予想していたでしょうか、ということです。先入観をもって見るべきではないと思います。

ただし、今後株価が強含んで行くとなると、心配になるのがバブルです。バブルは常に形を変えてやってきますから、事前に予想するのは不可能ですが、それでも何かサインはあるはずです。ちなみに、私が注意している指標は米国企業のレバレッジです（次頁図）。

## 第 3 回東京瓊林サロン講演④

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑

### 企業の財務レバレッジ

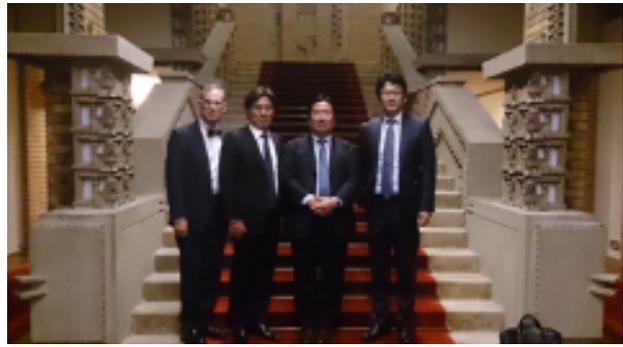


企業の儲け（キャッシュフロー）に対して何倍の借金を抱えているかを表した指標で、バブル崩壊直前に 5 倍程度になっているのが見て取れます。そのピークが次にいつくるのか、トレンドを伸ばして頭の体操をしてみると、22 年が怪しいということになります。先ほど 3 年周期と紹介した景気循環の次のボトム（19 年プラス 3 年 = 22 年）と重なりますので、不気味です。

一方、大統領選挙の関連では民主党候補のブティジェッジに注目しています。まだ支持率はそれほど高くありませんが、弱点である黒人票の獲得に成功すれば、大化けする可能性があります。バイデンやサンダース、ウォーレンであればトランプ再選は揺らがないと思いますが、ブティジェッジならトランプが負ける可能性が出てきます。そうなると、一時的に株価が急落する可能性がありますので、注意が必要です。

さて、国内に目を向けましょう。今年の景気を占う上では、なんといっても消費増税の影響を見定める必要があります。去年は日本でも 3 月から 5 月にかけて景気後退懸念が強まりました。それで安部総理が消費税率引き上げを逡巡されたのでしょうか、「経済談義の会」（5 月 16 日）が催され、私も参加する

機会を得ました（下が記念撮影した写真）。



その時に感じた正直な印象は、予定通り消費増税は実施されるというものでした。新聞をはじめ報道機関は増税延期の布石と書き立てましたが、事実は全く逆です。今回は、軽減税率の採用、柔軟な価格転嫁を促すガイドラインの発出、ポイント還元セール、教育無償化など、政府としてもかなり気合の入った対応策を講じていますので、延期されることはないと見ていましたが、実際、予定通り増税は実施されました。

増税の影響を考える上で最も重要なポイントは物価への影響です。前回増税した 2014 年は、増税分が一斉に価格に転嫁されたため、消費者物価の前年比が 3.7% まで跳ね上がりました。こんなことが起きると、実質的な所得が大きく目減りするため、財布の紐が固くなります。これを「所得効果」と言いますが、今回は上述した策もあって、物価が跳ね上がるということは起きていません。したがって、家計調査を見ますと、10 月は駆け込みの反動から消費は大幅に減少しましたが、11 月はしっかりリバウンドしています。心配なのは暖冬の影響で、冬物衣料が売れていないのは気になることです。

このように 10-12 月期の成長率は消費増税の影響からマイナス成長は免れないと思いますが、今申しあげました通り、消費の基調は一天候要因による一時的な下押しはあるにせよ正常化しています。また、12 月 5 日に閣議決定された 26 兆円に上る経済対策の効果

## 第3回東京瓊林サロン講演⑤

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑

もある程度期待できますので、20年1-3月期はプラス成長に復帰すると考えています。つまり、2四半期連続のマイナス成長—これをテクニカル・リセッションと言いますが—は避けられると思います。

次に金融政策です。去年は日銀と市場との対話が非常に面白い1年でした。何が起きたかと言いますと、「狐と狸の化かし合い」です。今の日銀はご存知の通り、円高が大嫌いです。一方、効果が不確定で副作用の強いマイナス金利の深掘りもしたくない。でも、円高になれば深掘りをせざるを得ないので、その意味からも円高は何としてでも避けたい。これが黒田総裁と雨宮副総裁の気持ちだったのだろうと思います。

しかし、昨年、米国では景気後退懸念への対応から、6月頃にはFRBが年内3度か4度、利下げを行うだろうと言われていました。マネーは金利の高い方に向かいます。米国の金利が高ければ、円が売られてドルが買われ、そのドルで米国債などが買われます。つまり、米国の利上げは円安に、利下げは円高につながるわけですから、FRBが利下げを行うとなれば、日銀としてはそれによる円高圧力に対抗しなければなりません。

そこで、黒田総裁と雨宮副総裁による極めて狡猾な情報戦が繰り広げられることとなります。まず、7月の金融政策決定会合(MPM)では、FRBの利下げによって円高になりそうか、事前に丁寧なヒアリング調査をした上で、円高に振れないだろうと読み、現状維持を決定しました。しかし、9月も乗り切らなければなりませんから、そのための仕掛けとして、声明文の最後に、「海外経済の動向を中心に経済・物価の下振れリスクが大きいもとで、先行き、物価安定の目標に向けたモメンタムが損なわれる恐れが高まる場合には、躊躇なく、追加的な金融緩和措置を講じる」という、

市場に対する牽制とも取れる文言を追加したのです。これが後々効いてきます。

8月下旬から9月にかけて、日銀内では、深掘りせざるを得ないとのムードが強まっていました。そうした中、実際に深掘りを実施するとなった場合に抱き合わせで行う、副作用への対応策が、執行部内で検討されたと推察されます。そして腹を括ったのでしょう。黒田総裁と雨宮副総裁は—これは私の推測ですが—「深掘りも100%選択肢」といった趣旨の情報発信を陰に陽に行い、市場に「日銀は深掘りに前のめりだ」という印象を刷り込むことに成功します。その結果、8月末にかけて10年金利がマイナス0.29%超まで低下したわけですが、結果としてFRBが2度目の利下げをした9月も、円高にならずに済んだわけです。そして深掘りは回避されました。しかし、FRBの利下げは10月も行われると見られていましたので、日銀はまだ円高圧力と闘わなければなりません。そこで、9月MPMの声明文で、下に記載した、如何にも思わせ振りのアナウンスメントを行いました。

### 19年9月MPMでのアナウンスメント

6. このところ、海外経済の減速の動きが続き、その下振れリスクが高まりつつあるとみられるもとで、日本銀行は、「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる恐れについて、より注意が必要な情勢になりつつあると判断している。こうした情勢にあることを念頭に置きながら、日本銀行としては、経済・物価見通しを作成する次回の金融政策決定会合において、経済・物価動向を改めて点検していく考えである。

8月下旬からの黒田総裁、雨宮副総裁による深掘りへの前のめりな発言と、このアナウンスメントです。日銀OBを含め、多くの日銀ウォッチャーが10月MPMで深掘りが実施

## 第3回東京瓊林サロン講演⑥

循環↑財政↑イベント↑妙な流行語↑地政学↓↑

されると素直に受け取っても仕方ありません。幸い、私は政策委員会のメンバーや執行部との情報交換をこまめにしていたこともあり、9月のアナウンスメントは「円高にさせないための引っ掛け」、言ってみれば「深掘りをしないためにあえて深掘りを匂わせているのだ」と見ていましたし、景気や物価、為替の状況から追加緩和を行う理由はないと判断していましたので、騙されずに済みましたが、多くの市場参加者が日銀の情報戦略にまんまと引っ掛かったわけです。結果、円高に振れず、日銀の目論見通り、深掘りは見送られました。

以上のように、日銀はFRBの利下げを背景とする円高圧力をなんとか凌ぎ切り、深掘りをせずに済んだというのが、今年の顛末です。今年は大統領選挙もあり、FRBは政策変更を行わないとみられていますので、日銀も特に動かないと思います。しかし、だからといって何もしなくて良いとは思いません。2016年1月にマイナス金利政策を導入してから4年、2013年4月に異次元緩和を開始してから約7年になります。下表で確認できる通り、この間何が起きたかという、単に日銀と金融機関の間で国債と現金が交換されただけです。インフレターゲット2%は一度も実現していませんし、この先実現するとも思えません。

前述の表は、量的質的金融緩和（QQE）が実施される直前の13年3月末と、2018年3月末の日銀のバランスシートです。資産サイドの「国債」が323兆円増加したのに対し、負債サイドの「当座預金」も329兆円の増加と、殆ど同じであることが分かります。

昨年12月、スウェーデンの中央銀行であるリクスバンクは、副作用に配慮してマイナス金利政策を解除しました。欧州中央銀行（ECB）も今のマイナス金利政策の枠組みを修正しようと検討を始めています。当然、こうした動きは中央銀行コミュニティにおける議論を活発化させるはずですが、日銀においても、是非、現在のマイナス金利政策（イールドカーブコントロール）が適切かどうか、その費用対効果を改めて検証してほしいと思います。

膨張する日銀のバランスシート

<2013年3月末>		<2018年3月末現在>	
資産	負債および純資産	資産	負債および純資産
現金	0.4	現金	329.0
国債	32.2	国債	323.0
国債	125.4	国債	448.3
CP等	1.2	CP等	2.1
社債	2.9	社債	3.3
ETF	1.5	ETF	18.9
J-REIT	0.1	J-REIT	8.0
国投制度株式会社	1.4	国投制度株式会社	1.0
貸付金	35.5	貸付金	46.4
外国為替	5.8	外国為替	6.6
合計	164.3	合計	928.5
合計	164.3	合計	928.5



## 「第60回日本寮歌祭」は令和2年8月2日開催です！

学35 堀田 毅



昨年、正式に、中央寮歌祭が日本寮歌祭の名を引き継ぐことが決まり、令和元年8月4日に記念すべき第59回日本寮歌祭が開催されました。今年は「第60回日本寮歌祭」として、8月2日(日)に、日暮里のホテルラングウッドにて開催の予定です。60回≒60年といえは還暦。今年もまた改めて記念すべきめぐり合わせであるとともに「100年続く日本固有の文化を伝承する行事」を目指して新たな一歩を踏み出す日になります。

例年、50校前後、総勢約400名にて開催されており、我が校からは毎年5～10名前後の参加となっています。ここ数年、参加者が一番多いのは第四高等学校(金沢大学)で、昨年はなんと40名以上！我が校も、高商歌「暁星淡く瞬きて」をこんな大人数で歌いたいものだと思っている次第です。

ところで、昨年この誌面をお借りして書きましたが、今、現役学生は「暁星淡く瞬きて」を歌う機会に恵まれず、歌えない学生、ひいては歌えない卒業生が、年々増えているそうです。つまり「高商歌を知らない子供達」が年々増えている、そして、ゆっくり年月をかけて、高商歌「暁星淡く瞬きて」は忘れ去られようとしているのです！

さびしいじゃありませんかっ！！

同窓の仲間が集まるときには、老いも若きも肩組んで足振り上げて高商歌を歌いたいじゃあーりませんか！？

そんな想いを込めて、長崎大学経済学部長にぜひお願いしたいことがあります。入学したらまず真っ先に高商歌を覚える機会を、そして、事あるごとに高商歌を歌う環境をぜひ作ってください！そらで歌えたら1単位ぐらいあげてもいいんじゃないでしょうか？それぐらいの価値はあると思います。母校に対する愛と誇りと団結心を醸成する意味でも。



あっ、、、常日頃のうっ憤をつい吐き出してしまいました。ごめんなさい。なにはともあれ、とにかく一度来てみてください、日本寮歌祭。歌って酒飲んで旧交を温めつつ、新たに仲間を増やしながら、日本固有の文化継承の一翼を担う、一石五鳥の素晴らしいイベントです。ぜひ同期同窓の仲間とお誘いあわせのうえご参加ください。首を長くしてお待ちいたしております。

日本寮歌祭 長崎大学代表幹事 堀田 毅

# 東京瓊林俳句会

山下 勉 (学9 所沢市)

正月宿羽織袴で迎へらる  
神殿に鳩の居並ぶ淑気かな

城 善政 (学11 世田谷区)

箏の宴松の屏風に秋深む  
年あらた家族の写真を眺め入る

西尾 智博 (学11 東久留米市)

去年の富士今年の初日浜辺より  
梅ひらく「桃佳」「菜々美」の姉妹  
にも

稲山 清紀 (学12 四街道市)

文机に影を落とせり秋簾  
妻留守の手持ちぶさたや秋時雨

岩下 芳和 (学12 八王子市)

闇よりの艫の哭く音は精霊舟  
我が生も欠け行く運命月の影

高本 正 (学12 品川区)

箱根路に駅伝応援ひなたぼこ  
富士仰ぐ稲村ヶ崎冬の波

野村 方昭 (学12 さいたま市)

白鳥の群れつ薄暮の水明り  
頁繰る指の乾きや寒波来る

西 宏 (学12 成田市)

花終絶唱三句子規堂に  
城抜きて伊予の高嶺や冬の晴れ

山内 裕介 (学16 豊島区)

少年のこころ失せじや天高し  
飢えし日の昭和の記憶零余子飯

井口 篤子 (学20 横浜市)

声掛けつ被災路地掃く野分明け  
夕陽射す深き轍に虫の声

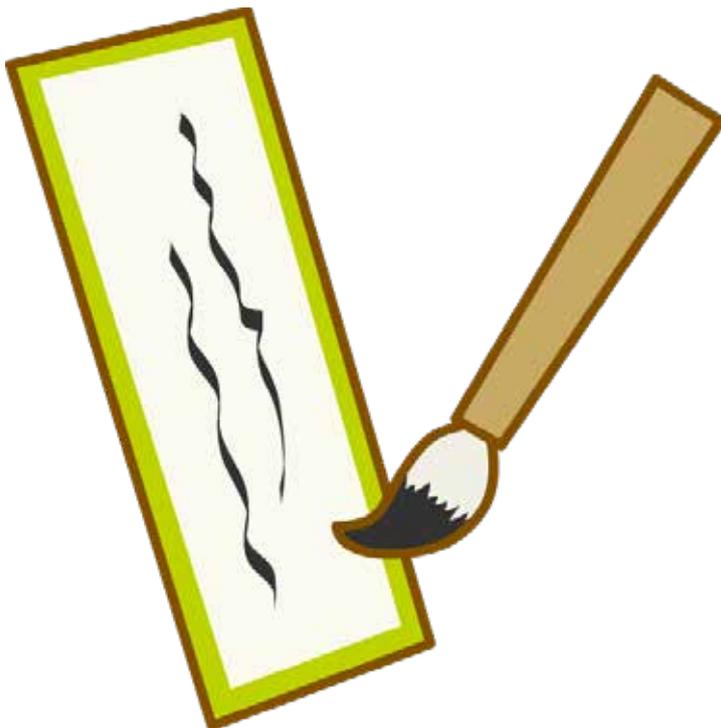
瓊林俳句会会員募集中

月一回・月額二千元

長崎県東京産業支援センターにて開催

連絡先 城 善政

(03 3419 2660)



## 人生100年時代に元気を与える「瓊林友の会」

瓊林友の会 会長（学9） 小川 渚

「瓊林友の会」は、昭和54年の創立以来、昨年40周年の佳節を迎え、各種の記念事業を行いました。5月の「記念式典」に始まり、記念扇子を会員全員に配り、11月には「記念旅行・長崎の集い」を開催しました。

「瓊林友の会」は現在、世代交代が進む中でも250名の会員をキープしており、会社生活から解放された「自由時代」を「楽しい・元気をもろう・心の拠り所」をキーワードとして、第二の人生を「生き甲斐を持って」自由時間の多い主に平日の昼間を有効に活用した活動を行っています。

又、私が主催しているTNS（友の会ネットワークサービス）を通して、全国の会員の方々とも情報の共有とネットを通しての会話も賑やかになって来つつあります。最近は女性の方々も徐々に興味を持つ方が増えており、華やかな会になりつつありますので、どうぞお気軽にご入会ください。お待ちしております。

「瓊林友の会」の最大の目的は、これから迎える人生100年時代に向けて、学縁という絆を大切に「超高齢化社会」を有意義に過ごす時間と場所を提供することです。

「瓊林友の会」では下記のような多彩なイベントを催しています。これには会員でない方も「瓊林友の会」を知るために気軽に自由に参加して頂いております。

“百聞は一見に如かず”是非一度イベントに参加されては如何でしょうか。

### 2019年に開催した主なイベント

- ・毎月「定例会」～「談話サロン」～「ミニ懇親会」（四谷センター）
- ・1月「新年会」～談論会「知られざる中国について」  
散策会「新春小石川七福神巡り」28名参加
- ・5月「通常総会」「創立40周年記念式典」  
四谷主婦会館にて 40名参加
- ・6月 散策会「東京堀切菖蒲園」16名参加
- ・9月 創立40周年記念扇子を会員全員に配布
- ・10月 散策会「中山道を歩く～板橋界限」18名参加  
瓊林会東京支部 / 瓊林友の会共催ゴルフ大会 新千葉CC
- ・11月「記念旅行・長崎の集い」延べ29名参加
- ・12月「談話サロン」～「忘年会」延べ33名参加



通常総会&記念式典集合写真



散策会・中山道・を歩く



左上から  
 ・「長崎の集い」瓊林会館前集合写真  
 ・散策会・中山道を歩く  
 ・「長崎の集い」懇親会・京華園



「長崎の集い」県庁中村知事表敬訪問間

## 春の東京瓊林ゴルフ大会

学21 佐藤 隆一

春の東京瓊林ゴルフ大会は4月22日(月)、お馴染みの佐倉CCにて開催されました。今回は初めて瓊林会東京支部と瓊林会友の会との共催となりました。



爽やかな好天と微風の下、ゴルフ愛好の面々15名が参加し、ゆるやかな起伏がある松や杉でセパレートされた丘陵コースに挑みました。距離はそう長くはな

いがフェアウェイは打ち上げ、打ち下ろし、池越え、ドッグレッグなど変化に富んでおり正確な状況判断とそれに伴う高度な技術が要求されるコースと紹介されている。

参加者はそれぞれにスコアメイクに苦労しながらも絶好のゴルフ日和を楽しみホールアウトしました。

入浴後、揃って懇親を兼ねた表彰式となり栄えある優勝は田中健一会長(学21)、グロス92、ネット71.6で昨秋に続き連覇、出だし3ホールの大たたきが隠しホールとなったのが幸いであったとの優勝の弁であった。準優勝は井原弘道さん(学18)でベストグロス賞(88)も併せて獲得した。3位は田代正三さん(学20)、以上が上位入賞者であったがラッキーセブン賞(7位)、10位、ブービー賞、ブービーメーカーと表彰された。特別賞のDCはグランドシニアの小淵繁利さん(学9)と澤部寿孫さん(学12)が獲得、まだまだ還暦そこらには負けないとの気概を示しました。NCは三谷彬明さん(学11)稲山清紀さん(学12)松尾肇さん(学23)でした。又、田中会長より豪華な賞品(高級ワイン、レアものの壺岐焼酎、福砂屋最中)が寄贈され順位賞に外れた8名の内、ジャンケンで4名が獲得、残った4名には参加賞(図書カード)が配られ乾杯してお開きとなりました。

次回は当クラブで10月頃に開催する予定である。

### ■参加者(敬称略)15名

小淵繁利(学9)  
城善政、三谷彬明(以上学11)  
稲山清紀、川口恒夫、澤部寿孫(以上学12)  
井原弘道、柿田寛(以上学18)  
田代正三、橋本俊介、山内朗(以上学20)  
田中健一、佐藤隆一(以上学21)  
松尾肇(学23) 原田稔(学31)



## 秋季の東京瓊林ゴルフ大会

学21 佐藤 隆一

秋季の東京瓊林ゴルフ大会は10月21日（月）、千葉県東金市の新千葉CCにて開催されました。

このゴルフ場は54ホールありますが、難易度が中位のつくもコースを廻りました。これまでも瓊林友の会コンペを数回開催したことがあります。

今年の関東地方は秋に入るや毎週のように台風禍に見舞われ特に千葉県内は水害、停電、鉄道不通など大被害を受けました。



偶々、当日は風もなく時々晴れ間もある快適なゴルフ日和に恵まれました。

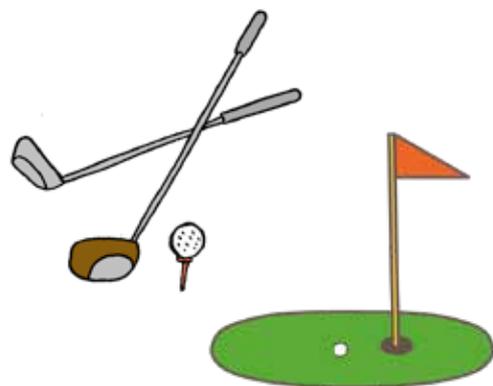
ゴルフ愛好者12名が参加し、ゆるやかな起伏があり、やや狭いフェアウェイ、池越えのホール等、変化に富んだ18ホールをラウンドしました。ホールアウト後、懇親を兼ねた表彰式となり栄えある優勝は田中健一会長（学21）、グロス87、ネット75で三連覇、ベストグロス賞の完全優勝であった。準優勝は井原弘道さん（学18）で2つのドラコン賞を獲得し飛ばし屋の面目躍如でした。3位は最年長の小淵繁利さん（学9）、往年の飛ばし屋健在です。その他、ラッキーセブン賞（7位）、10位、ブービー賞、ブービーメーカーと表彰されました。但し、今回の参加者に現役は一人もなく全員が還暦後のリタイア組で而も友の会会員でした。

最近ではゴルフをやる中堅の現役（40～50歳）が非常に少なくなり休日（土曜日）に開催しても同様であり東京瓊林ゴルフ大会の今後が懸念されます。

### ■参加者（敬称略）12名

小淵繁利（学9）  
石田昌吉、城善政、（以上学11）  
稲山清紀、川口恒夫、澤部寿孫（以上学12）

山内裕介（学16）  
井原弘道、柿田寛、徳重克己（以上学18）  
田中健一、佐藤隆一（以上学21）



## 長崎マンドリンアンサンブル (NME) 演奏活動①

学 12 川口 恒夫



### ～第 15 回ファミリーコンサート～

長崎マンドリンアンサンブル (NME) では、令和元年 11 月に瓊林会東京支部のご後援により、北千住シアター 1010 で「第 15 回ファミリーコンサート」を開きました。

会場は例年とは異なり、同じフロアにあるミニシアターを使用しました。こゝは、梅沢富美男劇団が稽古用にもよく使っているようで、音響効果も良く、演奏し易く聴く方にとっても心地良くて、100 名程収容できる手頃な場所でした。

当日は瓊林会会員の皆さん始め、親しい方々を中心に 80 名位の方が駆けつけてくれ、落ち着いた雰囲気の中で熱心に耳を傾けて頂きました。演奏後の皆さんの感想によると、演奏自体が例年よりも聴き易く、演奏曲目も馴染みのポピュラー系中心だったので、気楽に聴けて楽しかったという評価でした。

最後はアンコール曲のつもりで「東京五輪音頭」を演奏し、会場の皆さんに歌ってもらいましたが、終わっても拍手と「アンコール！持ってこい！」の声が鳴り止みませんでした。

それもその筈、プログラムに「歌詞」が織り込んであったので、会場の皆さんはアンコール曲とは思わなかったのでしょうか。演奏する側にとっては、嬉しい拍手でした。尚、第 16 回ファミコンは、2020 年 11 月 21 日 (土) 同じ会場の開催の予定です。

## 長崎マンドリンアンサンブル (NME) 演奏活動②

学12 川口 恒夫

### ～当日のプログラム～

#### ■第1部

<マンドリン合奏>

- ・海をテーマにした作品～アドリア海の青い空
- ・パイレーツ オブ カリビアン・ラメール
- ・海の組曲 他

<ギターアンサンブル>

- ・エル チョクロ
- ・この世の果てまで

#### ■ティータイム

#### ■第2部

<アンサンブル エレガンス>

- ・サン トワ マミー、マイ ウエイ 他

<マンドリン合奏>

- ・世界の国から日本へ～カルメン幻想曲
- ・パリの空の下
- ・スワニー
- ・コンドルは飛んでいく
- ・東京ラブソディ 他



## 瓊林会囲碁会・韓国囲碁旅行①

学 12 高本 正

令和元年 10 月 10 日から 4 泊 5 日の韓国旅行をした。私の勤めていた IBM では囲碁活動が活発で、韓国 IBM の囲碁仲間と交流し、平成元年から約 30 年間の長きにわたり、交流している。日韓がお互いに 1 年交代で訪問、今年は第 27 回目で日本から韓国を訪問した。

お陰様で私は韓国の観光地は有名なところはほとんど訪問しているのではなかろうか？



1. ソウル景福宮、昌慶宮、明洞、仁寺洞、南山、南大門、国立民族博物館
2. 慶州      3. 釜山      4. 濟州島      5. 雪岳山
6. 珍島      7. 河回村      8. 浮石寺      9. 安東

最近、日韓関係は最悪と言われる中、どんなトラブルに巻き込まれるかもしれない、という不安があり、いつも私に同行している、家内は参加しなかったし、直前で不参加を申し出る仲間もいた。しかし、団長の兵藤さんはこんな時こそ文化交流を深めるべきと囲碁仲間 8 名で乗り込んだ。瓊林会の会員、山内氏（学 16）は韓国は初めてと興味深々参加した。

前回、の韓国訪問は 3 年前で、参加者は 4 人と少なかった、もう、そろそろ日韓交流も終結すべきという意見も出ていた、しかし、昨年 10 月日本側が迎えたときは、四谷の長崎県東京産業支援センターで、日本 IBM、韓国 IBM に加えて長崎チームを編成し、3 チームの三つ巴戦を行った。長崎チームは原岡（学 11）、山内（学 16）、高本（学 12）、本村（学 14）、大串（ゲスト）のチームを編成し、韓国 IBM を破った。囲碁大会後の懇親会は隠れ岩松で長崎料理を堪能し、その盛り上がりの効果が今回 8 名参加という結果につながったようである。

韓国訪問の様様を観光、食事、囲碁大会の 3 つのテーマで記す。

### ・観光

#### ■光華島

今回の韓国側が企画してくれた観光地は光華島（Kan Phangdo）。

仁川国際空港に近く、北西に車で 30 分、小島の中に歴史文化の見所が多いところであった。

印象深かったのは最後の訪問地となった、支石墓である。

日本では明日香村に石舞台があるが、飛鳥時代の豪族の墓といわれているが、あの韓国版である。案内板には光華 富近里 支石墓（Dolmen in Buguenri Kanwan）とある。

夕方 5 時を過ぎており丘陵には細い芒が揺れ、支石墓の上には薄暮の月が丸く浮かんでいた。この辺りには大小とりまぜて 157 の支石墓が認められている。もちろん世界文化遺産に登録されている。丘陵の入り口に 2 つの縄文時代の住居が展示されているので支石墓は縄文時代のものであろう。明日香村の石舞台の大先輩がここにあるというわけである。

縄文の支石墓照らす秋の月  
仁川の支石墓に揺る細芒



## 瓊林会囲碁会・韓国囲碁旅行②

学12 高本 正

### ■景福宮

山内さんが韓国ははじめてなので、少なくとも景福宮だけは案内しておくべきと思い、午前中の2時間の自由時間を利用してタクシーでかけた、幸い衛兵の交代式を見学できた。勤政殿の玉座を参観すれば十分、その後は景福宮の隣にある韓国国立民族博物館を素通りするように参観した。平均的な韓国人の一生を説明展示していた。

### ・食事

#### ■あひるの焼き肉

光華島観光の後ソウルに戻り2日目の夕食、ソウル郊外に大きなレストランを構え多くの客がたむろしている。30分も待ったであろうか？ようやく入店が許可され建物の中にはいると、焼き肉屋である。コンロで焼けたのをチシャやゴマの葉に巻いてだいこんや、ニラ、ねぎをそえて食べる。淡泊で食べやすく、何切れも食べた。最後にはコンロのもとで銀紙に包まれた焼き芋も供されビールや焼酎とともに楽しんだ。腹も一杯になった。

#### ■イタリアン

樹木園に向かう途中のイタリアンレストランもうまかった。ワインとともにピザ、パスタ、フォカチャなど楽しんだ。シェフが日本びいきで日本語の哲学書など披露して会話も弾んだ。

### ・囲碁大会

3日目の日曜日は1日中囲碁交流であった。200席もあろうかという広い碁会所。日本側7名に対し、韓国勢は11名、A,Bの2つのクラスに別れ変則で4局対局で優勝を競った。日本側Aクラスは山内7.5段、高本7段、谷野6.5段、兵藤5.5段、Bクラスは木谷4.5段、金子4.5段、原3段、韓国勢はJang9段、Shin7.5段、Kahng6.5段、Lee6.5段、J Lee6.5段、Park6.5段、Minho Kim6段、Cho5.5段遅れて参加したYang6.5段、JinhoLee6段、CS kim5段の顔ぶれだった。

私の1回戦の相手は前日ホテルでの楽番に敗れたShin7.5段 私の常先、序盤からリードを保っていると思ったが、細かい碁で幸い1目勝ち。

2回戦はLee6.5段、私の白番。終始主導権を握られ10目負け。3回戦韓国側リーダーのKahng6.5段、私の白番、方々で間違っていたいただき白中押し勝ち。

4回戦韓国最強のJang9段、私が2子置いてしかもコミを5.5目もらう。Jangさんには今まで勝った覚えがない、日本でも負けている。淡々と、最善手を求めて打ち進めるが、次々に白の強手に対応しなければならない。いつも大間違いして負けるのだが、終盤に入るところで、コウをしかけ、黒の優位は動かず、盤面3目残した。逆コミをいれて8.5目勝ちとなった。

私は公式戦3勝1敗、兵藤さんも同じ3勝1敗年長の私に優勝がころがりこんだ。

出発前の不安もふきとんで、なんのトラブルもなく今回も楽しい旅となった。韓国の仲間がマイカーを出して案内してくれ、韓国内を快適に旅できる。車を出してくれ彼らはチームワーク良く、我々をもてなしてくれた。日韓交流はまだ当分は続けられるという確信を持った。

# 邪馬壹國九州説の検証①

学 21 田中 健一

## ■ 邪馬壹國論争の疑問点

邪馬台国論争というものがある。その論争とは『魏志倭人伝』の記述に関して、邪馬台国の所在地がどこにあったのかというものであり、主として畿内説と九州説がある。

こうした論争が起こった経緯を辿ると、江戸中期の 1668 年に学者の松下見林が『異(い)稱(しょう)日本傳』において、邪馬台国は畿内にあり卑弥呼は神功皇后であるという説に遡る。その後 1798 年には本居宣長が邪馬台国は畿内、九州のどちらの可能性もあると解釈し、明治 43 年になると京都大学の内藤虎二郎の畿内説と、東京大学の白鳥庫吉の九州説が真っ向から対立して邪馬台国論争が始まった。そして昭和 42 年になると島原鉄道役員の宮崎康平が、『まぼろしの邪馬台国』を執筆し、九州説を唱えて大反響を呼んだ。

その後も考古学者、民俗学者、歴史学者、文献学者、数学者などの専門家に加えて、一般人も研究活動や執筆活動を行い、それぞれ畿内説と九州説を唱えている。筆者も邪馬台国ファンの一員として、原典である『魏志倭人伝』の解釈を中心に所在地を探してみたい。

## ■ 魏志倭人伝における邪馬台国の解釈

『魏志倭人伝』とは魏から禪(ぜん)讓(じょう)を受けた中国の西晋時代の 270 年から 280 年にかけて、西晋の官吏を勤めた陳(ちん)寿(じゅ)が、倭に派遣され 20 年滞在した武官の張(ちょう)政(せい)への取材により作成した三国志の一部である。三国志は蜀(しよく)志(し)、呉(ご)志(し)、魏(ぎ)志(し)からなり、魏志は帝(てい)紀(き)、列伝(れつでん)、夷蛮伝(いばんでん)に分かれ、夷蛮伝は烏丸(からすまる)・鮮卑伝(せんびでん)と東夷伝(とういでん)の二つに分かれる。東夷伝は夫余(ぶよ)、高句(こうく)麗(り)、東(ひがし)沃沮(よくそ)、挹婁(はる)、韓(かん)、倭(わ)の条に分類されており、倭の条が一般的に「魏志倭人伝」と呼ばれている。

『魏志倭人伝』では 3 世紀の倭国の政治や生活などが紹介されているが、なかでも邪馬台国と卑弥呼(ひみこ)についての記述が反響を呼んでいる。また邪馬台国への行程に曖昧な表現があることから、九州説と近畿説で大論争が続いている。

## ■ 邪馬台国(やまたいこく)と邪馬壹國(やまいこく)

『魏志倭人伝』の原文には次ページ原文の赤字枠のとおり「邪馬(やま)壹(い)國(こく)」とあるが、一般的には「邪(や)馬(ま)台(たい)国(こく)」と言われている。その理由については前述の『異称日本傳』で、松下見林が「壹(い)」は「臺(たい)」の間違いであるとし「邪(や)馬(ま)臺(たい)國(こく)」が正しいとし、その後「臺(たい)」の簡略字が「台(たい)」であるため「邪(や)馬(ま)台(たい)国(こく)」と呼ばれるようになったのだと推測される。しかし『魏志倭人伝』の中では、「壹(い)」の文字が卑弥呼の宗女にも「壹與(いよ)」として使われ



(出典：石原道博編訳『魏志倭人伝』1985 年。赤線は筆者が追加)

## 邪馬壹國九州説の検証②

学21 田中 健一

ており、「壹(い)」が「臺(たい)」の間違いなら、こちらも「臺(たい)與(よ)」と呼ぶべきであるがそうは言われていない。一方で魏志倭人伝には「臺(たい)」は魏の宮殿という記述もあり、作者の陳寿が文字を間違えたとは思えない。このことから「邪(や)馬(ま)台(たい)國(こく)」ではなく、「邪馬(やま)壹(い)國(こく)」として呼ぶのが合理的であり、以下では「邪馬(やま)壹(い)國(こく)」と表現する。

### ■ 魏志倭人伝による帯方郡から邪馬壹國への行程

『魏志倭人伝』には出発地である帯方郡(ソウル)から邪馬(やま)壹(い)國(こく)への行程が記述されているが、その行程を以下のように三つに区分して解説を進める。下線部分は原文である。

#### ・第1行程

倭人在帯方東南大会之中依

倭人は帯方郡の東南、大海の中にある。

至倭循海岸水行歴韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國七千餘里

倭に行くには海岸に沿って南や東に向かい韓国を通過して7,000余里で倭の北岸の狗邪韓國(釜山)に到達する。

#### ・第2行程

始度一海千餘里至對海國

初めて海を渡り、1,000余里で對海國(対馬)に至る。

南渡一海千餘里名日瀚海至一大國

南の方に瀚海(広い海)を1,000余里で、一大國(壹岐)に至る。

渡一海千餘里至末廬

海を渡ること1,000余里で末廬國(唐津)に至る。

#### ・第3行程

東南陸行五百里到伊都國

東南に陸行すること500里で伊都國(糸島)に至る。

東南至奴國百里

東南の方の奴國(福岡)に100里に至る。

東行至不彌國百里

東の方の不彌國(宇美)に100里に至る。

#### ・全行程

南至邪馬壹國女王之所都水行十日、陸行一月

南の方の女王がいる邪馬壹國(平塚川添遺跡)に水行10日、陸行1月で至る。

郡至女王國萬二千余里

帯方郡(ソウル)から女王國(平塚川添遺跡)まで12,000余里で至る。

## 邪馬壹國九州説の検証③

学 21 田中 健一

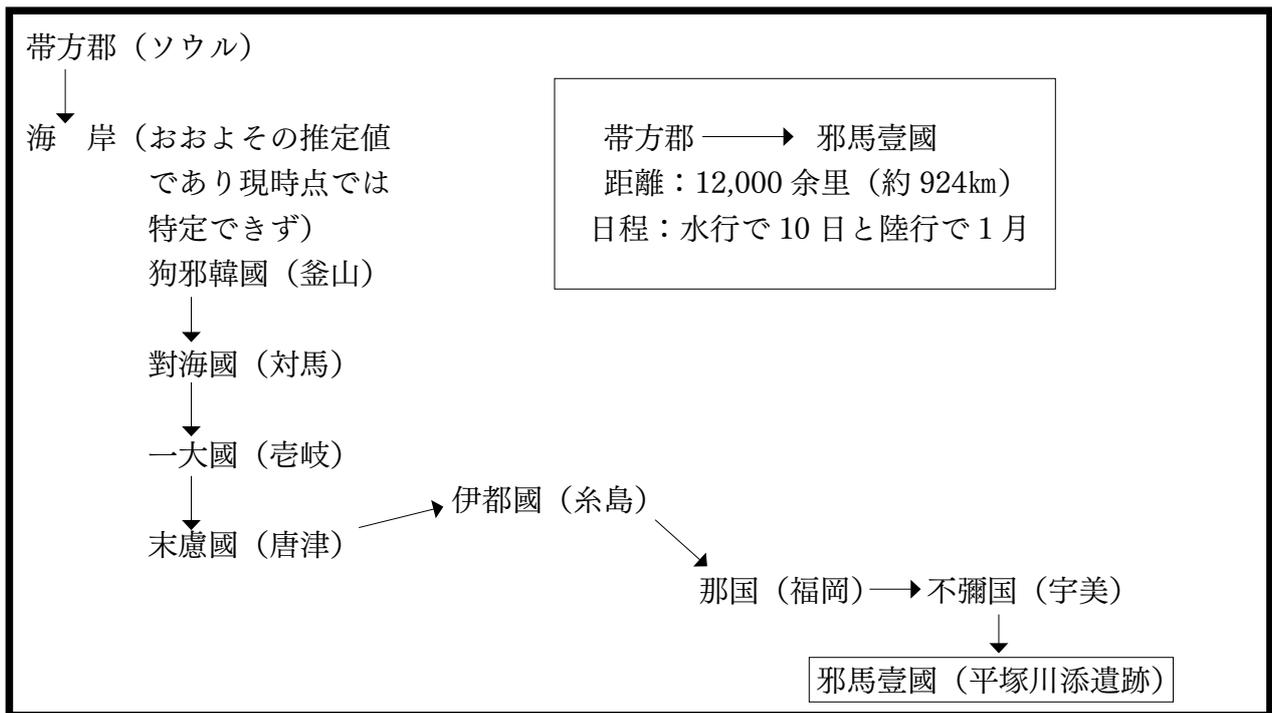
第 1、第 2、第 3 行程の距離の合計は 10,700 余里 (7000 + 1000 + 1000 + 1000 + 500 + 100 + 100) となり、全行程の 12,000 余里に 1,300 余里不足する。この分を補うためソウル・海岸の区間と宇美・邪馬壹國の区間を不記載分 (不足分) として以下設定した。この不記載分の距離と根拠は後述する。

・不記載分 (不足分) を推測した全行程

ソウル	→	海岸	→	釜山	→	対馬	→	壹岐	→	唐津
		不記載分		7,000 余里		1,000 余里		1,000 余里		1,000 余里
唐津	→	糸島	→	福岡	→	宇美	→	邪馬壹國 (平塚川添遺跡)		
		500 里		100 里		100 里		不記載分		

### ■ 帯方郡から邪馬壹國までの簡略行程図

以上の行程を簡単に図式化すると以下のようになる。



### ■ 邪馬壹國論争の疑問点

『魏志倭人伝』の解説で難解なのは、帯方郡から邪馬壹國までの行程において、距離や方向に正確な記述がないことである。多くの邪馬壹國研究家がこれらの曖昧な記述について様々な角度から研究を進めており、それぞれ独自の説を唱えている。邪馬壹國は畿内に存在したという説や、九州説でも博多湾岸や島原半島にその可能性があるという説など見解が大きく分かれている。これは多くの曖昧な記述の解釈に差異が生じているために発生していると考えられる。筆者は原典を努めて合理的に解釈することで、邪馬壹國の位置の特定を図ることにした。以下が疑問点とそれに対しての合理的と思われる解釈である。

## 邪馬壹國九州説の検証④

学 21 田中 健一

### ① 邪馬壹國論争の疑問点

『魏志倭人伝』の解読で難解なのは、帯方郡から邪馬壹國までの行程において、距離や方向に正確な記述がないことである。多くの邪馬壹國研究家がこれらの曖昧な記述について様々な角度から研究を進めており、それぞれ独自の説を唱えている。邪馬壹國は畿内に存在したという説や、九州説でも博多湾岸や島原半島にその可能性があるという説など見解が大きく分かれている。これは多くの曖昧な記述の解釈に差異が生じているために発生していると考えられる。筆者は原典を努めて合理的に解釈することで、邪馬壹國の位置の特定を図ることにした。以下が疑問点とそれに対する合理的と思われる解釈である。

#### ① 1里を4km設定にすると邪馬壹國は太平洋の彼方

1里を現在の4kmとして『魏志倭人伝』を読むと、邪馬壹國は太平洋の遥か彼方になり合理性がない。この点の疑問については1里を魏の時代の短里の77mと解釈すると疑問が解消する。短里は前漢の時代に考案された『周髀算経』という数学書で使用されており、実際に地図帳で個々の区間を計測してみても、77mに近い数値が得られる。

#### ② 帯方郡から邪馬壹國までの距離に不一致

前述したように個々の行程の合計が1,300余里不足している。これについては、記載のない2か所の区間を推定して加えることで合理性が出る。それは帯方郡から近隣の海岸（おおよその地域を推定）までの行程と、宇美から邪馬壹國（平塚川遺跡）への行程である。両行程の距離をそれぞれ1,000余里、300余里と推測すると、合計が1,300余里となり不足分が解消する。短里を用いて地図上で測定すると、帯方郡から海岸までが約77km（おおよその推定）であり1,000余里に一致する（1,000余里×77m）。宇美から邪馬壹國（平塚川添遺跡）への距離も約23kmであり、想定した300余里に一致する（300余里×77m）。

#### ③ 壱岐・唐津間の距離が1,000余里（約77km）と過大

壱岐・唐津間の距離1,000余里（約77km）は実際の距離と比較して長すぎるが、一方で釜山・対馬間の距離1,000余里（約77km）は短すぎる。この疑問については、釜山・唐津間の距離が3,000余里（約230km）であり、「釜山・対馬」、「対馬・壱岐」、「壱岐・唐津」の3区間を、それぞれ1,000余里（約77km）と簡素化して表現したと思われる。

実際に地図上で計測すると釜山・唐津間は約230kmとなる。『魏志倭人伝』における距離は1,000余里、500里、100里という区切りの単位で表現されており、それ以外の数値は使用されておらずこの点からも納得がいく。

因みに『魏志倭人伝』において、帯方郡から唐津までの海上行程の距離には「余里」として「余」という字が付けられているが、唐津から不彌國までの陸上行程の距離には「里」とされており「余」が付けられていない。前者は海上行程であったため距離の測定が難しく、推測される距離を示すためにおよその意味を示す「余」が付けられたと推察される。

## 邪馬壹國九州説の検証⑤

学 21 田中 健一

### ④伊都國は東南の方角

第 3 行程の東南陸行五百里到伊都國、即ち「東南に陸行すること 500 里で伊都國（糸島）に至る」の記述で、糸島は唐津の東北にあるため不自然である。しかしこの疑問については、第 3 行程の文章の表現をつぶさに見ると疑問が解消する。

即ち東南陸行五百里到伊都國という表現は「東南に向かって歩き出し、500 里歩くと伊都國（糸島）に到達する」という意味である。もし伊都國が東南にあるなら東南到伊都國五百里という表現になるはずである。

この事は次の行程において東南至奴國百里と表現されていることから説明される。

即ちこの表現は「東南の方の奴國（福岡）に 100 余里に至る」という意味である。

魏使は東南に向かって歩き出し、途中で東北に向きを変えて伊都國に着いた訳である。

### ⑤不彌國から邪馬壹國までの表現が曖昧

全行程における南至邪馬壹國女王之所都水行十日、陸行一月という記述を「不彌國を出発点として邪馬壹國までの行程」と解釈するのではなく、「帶方郡から邪馬壹國まで船で 10 日と徒歩で 1 か月を要す」というように解釈すべきである。次の郡至女王國萬二千余里という記述が「帶方郡から女王國（邪馬壹國）」までの距離を示しており、一連の記述が全行程の「日数」と「距離」を示していると解釈できる。

### ⑥長すぎる水行 10 日・陸行 1 か月の行程

魏の時代の倭国では 2 倍年歴法を使用していたと推測される。その理由は魏略に「その俗正歳四節を知らず春耕秋収を年紀とす」とあり、『魏志倭人伝』にも「その人寿考あるいは 100 年あるいは 80,90 年」という記述があるからである。

したがって「水行で 10 日と陸行で 1 か月」という表現は、現在の暦に換算すると「水行で 5 日と陸行で半月」と解釈できる。ソウル近辺海岸から唐津まで船で 5 日を要し、ソウルから海岸までと倭国に上陸した後の唐津から平塚川添遺跡まで、徒歩で半月を要したということになる。一日 10km × 15 日で陸路距離 2,000 余里（約 154km）となり納得がいく。

## ■ 邪馬壹國に至るまでの遺跡

末慮國から邪馬壹國までには以下の遺跡があり、魏志倭人伝の記述と一致する。その中で注目される遺跡は平原遺跡と平塚川添遺跡である。

末慮國	—	唐津	—	菜畑遺跡
伊都國	—	糸島	—	平原遺跡
那 國	—	福岡	—	須玖岡本遺跡
不彌國	—	宇美	—	光正寺古墳
邪馬壹國	—	朝倉	—	平塚川添遺跡

## 邪馬壹國九州説の検証⑥

学21 田中 健一

### ・平原遺跡

伊都國には「一大率」という帯方郡と倭国の往来を管理する重要な機関が存在した。その遺跡が平原遺跡であり、興味深いのはこの遺跡に「卑彌呼の墓」と推定される墓が発見されていることである。ここからは女王に相応しい装飾品や大量の鏡が発見されている。墓の形状と大きさも『魏志倭人伝』に径100歩とあり、円墳であることと墓域が140m四方程度（魏時代1歩＝1.4m）と推定されることから、卑彌呼の墓であると想定される。

### ・平塚川添遺跡

平塚川添遺跡は1990年に発掘された古墳時代初頭（紀元前1世紀～西暦4世紀）の遺跡で、広さ17haの広大な環濠集落である。中央部には内濠に囲まれた中央集権的な集落が存在する。『魏志倭人伝』に記述のある邪馬壹國の時代に一致し、これまで述べた邪馬壹國の位置にも相当することから、平塚川添遺跡が邪馬壹國である可能性が高いと思われる。



卑彌呼の墓



邪馬壹國

(出典：筆者撮影)

## ■ 蓋然性がある邪馬壹國九州説

以上のように邪馬壹國ファンとして魏志倭人伝を吟味した結果、邪馬壹國は九州の福岡県朝倉市にある平塚川添遺跡であるという結論に至った。もちろん筆者の取得可能な情報で導いた結論であり、新たな情報が加味されることになれば今後異なった結論となる。ただ現時点では「邪馬壹國（やまいこく）九州説」は蓋然性（がいぜんせい）があると判断したい。

### 主な参考文献

石原道博編訳『魏志倭人伝』1985年 岩波文庫

半沢英一著『邪馬壹國の数学と歴史学』2011年 ビレッジプレス

古田武彦著『倭彌呼』2011年 ミネルバ書房

松下見林著『異(い)稱(しょう)日本傳』1668年 国会図書館蔵

丸山雍成著『邪馬壹國魏使が歩いた道』2009年 吉川弘文館

宮崎康平『まぼろしの邪馬壹國』1982年 講談社

## 経済サッカー部創部55周年記念祝賀OB戦・OB会の開催

林 純一 (学41回)

経済サッカー部の創部55周年記念OB戦・OB祝賀会が、令和元年11月9日(土)に行われました。

当日は、午前中に経済サッカー部創設当時のメンバーである学16回の吉田先輩のご講義を拝聴させていただいた後、学生時代に汗と涙を流した経済学部グラウンドにて、寄る年波に抗いながら、現役学生と一緒に白いボールを蹴りました追いかけました。

夜はホテルニュー長崎に会場を移し、全国から集まったOB39名、現役学生32名、総勢71名での親睦会が盛大に行われ、経済サッカー部の伝統と絆を改めて感じることができました。

また、現役学生にとっては、OBの方々から今後就職活動をしていく上でのアドバイスなどを聞く良い機会にもなったことと思います。

翌日10日(日)には、OB有志にて、令和第1回目のゴルフ会も開催されました。

なお、今後、OB戦(含むOBゴルフ会)は、毎年11月初旬の3連休中日にてご開催されます。2024年…令和6年には、創部60周年の記念OB戦・OB祝賀会のOB戦・OB会が予定されています。

今回参加できなかった皆様も、ご同期お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

### ■ OB戦・OB会参加者(敬称略)

学16回 吉田 征八郎 / 学19回 伊達 秀則 / 学21回 太田 廣行 橋口 佳周  
学27回 藤山 正幸 / 学38回 坂井 育広 山中 香代(旧姓橋本)  
学39回 久保 真由美(旧姓松尾)  
学40回 江崎 俊輔 杉町 周祐 鶴田 あゆみ(旧姓松下)  
学41回 赤坂 裕二 桑田 茂樹 林 純一 松本 健一 吉川 和夫 南里 清子  
学42回 小柳 俊和 原田 克治 松本 麻矢(旧姓橋本) / 学43回 都築 浩二  
学44回 森崎 徹也 美吉田 進 / 学45回 山崎 弘之 / 学48回 吉武 志郎  
学62回 請村 亮多 大小田 拓司 柴田 慎也  
学63回 末永 竜也 馬場 総太 三島 純一 牟田 朋弘 瀧上 諒  
学65回 久保田 悠 桑野 智伎 下川 翔也 / 学66回 平川 智也  
学67回 佐々木 直人 火置 怜佑



## 酒と泪とラグビーと素敵な繋がり

学部 29 回卒 国広昭彦

43年前、1977年4月に長崎大学経済学部に入りました。この年の経済学部の入試倍率は7倍を超え、何とかやれやれで合格出来ました。入試の反動もあり、入学後の学生生活については柔らか路線の楽しいキャンパスライフを空想し、あれやこれやと夢見心地にありました。入学して間もなく経済学部の新入生歓迎コンパ（飲み会）に参加しました。そこで同じ貿易学科の先輩にご馳走になりました。高校出たての若造が先輩に連れられ、調子に乗って、思案橋銅座のキラキラしたネオンを分け入って何軒か梯子しました。そのうち、だんだん意識が遠ざかり、気が付けばその先輩の片淵の下宿で朝を迎えていました。先輩はラグビー部の四年生でした。目が覚めるとラグビー部への入部が決まっていました。先輩の誘いに一宿一飯の恩義もあり、小心者にとって、万やむを得ない状況でラグビーボールを迫りかける学生生活が始まりました。

入部したものの毎日のラグビーの練習はきつく、おまけに上下関係もきつい。初めてのラグビーでラグビーのイロハから教わりました。飲み会もやたら多く、その都度潰され、飲み屋に居るのかトイレに居るのか分からない始末でした。一年生にとってはある意味練習以上につらいものでした。夢見た学生生活とは随分違ったスタートとなりました。合宿も大変でした。合宿所は経済学部内の川沿いにあった木造二階建ての芙蓉館です。一階が食堂で二階の古ぼけたカビ臭い畳敷きの大広間に各自布団を持ち込み一週間ラグビー潰です。早朝、午前、午後と目いっぱい練習です。練習が終わった後の夜も大変でした。体力の乏しい新入部員は夜になれば日中の練習に疲れ果て早々に寝てしまいます。そこへ有り余る体力で体の大きい上級生が酔っ払って帰って来ます。寝ている布団を剥されプロレスの相手をさせられるのです。大変ありがたい上級生とのスキンシップですが、下級生にとっては夜も厳しい合宿でした。

ラグビーの楽しさも少し分かり始めた一年の終わりの頃、四年生にとって卒業前の最後の合宿でのことでした。大広間に部員全員集められ夜のミーティングです。合宿所（芙蓉館）の灯りが全て消されました。真っ暗闇の静まり返った大広間に車座になり、四年生が一人ずつ立ち上がり順番にスピーチし、持ち歌をアカペラで歌って締めくくる流れです。四年生のスピーチが始まりました。四年間の思い出、ラグビーに対する思いや情熱、後輩に託す言葉等々、そしてグッとくる雰囲気のある魂の歌。暗がりの中、窓からの月明りに薄っすら映された四年生の顔。やがて、その目から一筋の光るものが頬を伝って落ちました。感極まり、最後は静寂の中別れの言葉が絞り出されました。電気を消し真っ暗にする理由が初めて分かりました。時にはお道化、時には優しくも、試合となれば鬼の形相で敵陣に突っ込むそんな四年生が泪、初めて見る光景でした。胸に沁み入るスピーチ、思い出される果敢なタックルシーン、下級生にもこみ上げる熱い物がありました。経済学部芙蓉館の暗闇の中で、目に見えない強い繋がりを感じた瞬間でした。

長崎でのラグビー部生活を振り返れば、きっかけはやや不純でしたが個性溢れる素晴らしい先輩、同期、後輩に囲まれた掛け替えのない思い出となりました。また、ラグビーというスポーツとしての魅力は言うに及ばず、一人の人間として人との繋がり大切さを教えてくれたよ

## 酒と泪とラグビーと素敵な繋がり

学部29回卒 国広昭彦

うに思います。大酒を飲み、人前でも平気でバカをする。自分を勘違いし、オランダ坂や鳴滝あたりの女学生に恋をしてはノックオンで自滅してしまう。映画の「フーテンの寅さん」みたいな恋を繰り返す。それでも、仲間を信じ、ひた向きに楯円球を追い、時には泪する純粋な心を持ち、試合だけでなくいざという時の結束力（繋がり）はとても強い。そんな人々に包まれたラグビー部に感謝で一杯です。

大学卒業後、ラグビー部の同期で海運会社（ジャパンライン）に入った中川和彦君に誘われ、彼の会社のラグビー部に入りました。入部すると全く知らない人ばかりなのに、部の雰囲気はどこか長崎大学経済学部ラグビー部と同じ匂いを感じるのです。同じようにバカをし、それでいてラグビーに対する前向きな姿勢は、場所やクラブが違ってラグビーという競技が持っている互に通じ合う不思議な「結束」（繋がり）があると思いました。プロテクター無しで生身の身体を真剣勝負でぶつけ合う激しい団体競技ならではの「結束」がありました。昨年の秋、ラグビーワールドカップは日本の活躍もあり大変な盛り上がりとなりました。流行語大賞にも選ばれた「ONE TEAM」の言葉に象徴されるように、外国出身者が多い日本代表はさまざまな言語や文化を乗り越え、まさに一つとなり、初のベスト8となりました。多くの人に感動と勇気を与えてくれました。

優勝したのは決勝でイングランドを撃破した南アフリカでした。決勝戦は私も横浜国際総合競技場で会社の仲間と観戦しました。優勝が決まり、7万人の大観衆の中で南アフリカ初の黒人主将シャ・コリシ選手が優勝カップを高々と揚げた姿は印象的でした。南アフリカは1990年代前半までアパルトヘイト（人種隔離：人種差別）政策がとられ「ラグビーは白人のスポーツ」とされてきました。こうした時代背景を経て南アフリカ初の黒人主将が率いての優勝、白人選手と黒人選手が共に汗にまみれて堅いスクラムを組み、歴史を超えての優勝は感慨深いものがありました。

「ラグビー憲章」というラグビーの基本理念がラグビーの世界共通ルールブックに成文化されています。「品位」・「情熱」・「結束」・「規律」・「尊重」の五つです。この中の「結束(SOLIDARITY)」については「ラグビーは生涯続く友情、絆、チームワーク、そして、文化的、地理的、政治的、宗教的な相違を超えた忠誠心へとつながる一体的な精神をもたらす」とされています。南アフリカ初の黒人主将による優勝、日本代表の「ONE TEAM」の考え等はラグビー憲章に謳われた「結束」そのものだと思います。日本が歴史的勝利を挙げたアイルランド代表も同様です。アイルランドは宗教上の理由等で、英国領の北アイルランドと南のアイルランド共和国に現在でも南北二つに分断された国家です。近年、アイルランド島等で南北間での激しい武力紛争で死者約3,500人を出すという大変不幸な歴史もあります。分断国家ということから一般的にはサッカー等の国際試合は南北別々のチームでの参加となっています。ところが、ラグビーでは南北夫々の選手が集まり、統一チーム（アイルランド代表）で参加し世界有数の強さを誇っています。また、ラグビーのテストマッチ（国際試合）では、アイルランド共和国国歌ではなく「アイルランズ・コール」という歌が試合前に歌われます。

## 酒と泪とラグビーと素敵な繋がり

学部 29 回卒 国広昭彦

アイルランド、アイルランド  
共に並び立つ、肩を組み  
共にアイルランドの叫びに応える

というような歌詞です。正に、ラグビーアイルランド代表についてもラグビー憲章の「結束」を一つの大きな形にしていると思います。

ラグビーは15人が1つのボールを相手ゴールに運ぶ競技です。しかし、前には投げられません。自分が敵にぶつかり自分が敵の盾となって、ボールを後方の味方に渡しながら前進します。自分が犠牲となり仲間に渡す自己犠牲の競技です。「結束」はこのラグビー特有のルールから自然と育まれているようにも思います。長崎大学経済学部ラグビー部からつながるラグビーの絆もこうした諸々の「結束」の精神によるものと今更ながら気付かされました。



## 平成29年度会費納入者一覧 (敬称略) 会費納入いただきありがとうございました。

(平成30年1月末時点)

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
高商 34	一瀬 恒徳	学部 02	丸山野 寿矩	学部 07	二瓶 丞一
高商 36	小林 健男	学部 02	山田 公巳	学部 07	原田 義之
高商 36	馬淵 高祐	学部 03	荒木 昇	学部 07	平川 公巳
高商 37	小縣 一也	学部 03	岩永 浩	学部 07	本多 常昭
高商 37	柴田 明	学部 03	浦川 延喜	学部 07	益田 元一
高商 37	花田 勲	学部 03	島田 辰義	学部 07	横川 等
高商 37	松岡 幸介	学部 03	津村 好計	学部 07	横沢 弘溶
経専 39	石盛 要	学部 03	永留 光之	学部 08	秋山 宏二
経専 39	梯 秀夫	学部 03	中山 琢磨	学部 08	岩永 弘正
経専 39	長谷川 憲志	学部 03	林田 富人	学部 08	鬼丸 勇
経専 40	井村 重光	学部 03	松尾 栄	学部 08	釜下 孝一
経専 41	岡田 悟	学部 03	三田村 博生	学部 08	工藤 欽伍
経専 41	末吉 純英	学部 03	本告 保彦	学部 08	黒田 勗
経専 41	中村 一彦	学部 04	青山 茂昭	学部 08	古賀 明茂
経専 41	森川 義朗	学部 04	木室 幸雄	学部 08	笹田 寛
経専 42	井上 直久	学部 04	倉地 完一	学部 08	高橋 吉明
経専 42	内野 昭志	学部 04	陣川 継治	学部 08	鉄川 銀三郎
経専 42	熊手 重久	学部 04	富永 隆介	学部 08	富田 俊男
経専 42	谷川 務	学部 04	中西 武重	学部 08	豊田 安鴻
経専 42	花田 健次郎	学部 04	福田 誠一	学部 08	長野 寛
経専 42	原 欣二	学部 04	吉本 孝	学部 08	中村 政治
経専 42	松本 勝美	学部 05	浅川 博之	学部 08	西山 正昭
経専 42	三宅 豊	学部 05	磯田 滋	学部 08	馬場 日出美
経専 43	池田 忠彦	学部 05	井手 明生	学部 08	浜口 孝昭
経専 43	黒川 博	学部 05	内山 淳見	学部 08	林 英男
経専 43	樋口 哲也	学部 05	甲木 英光	学部 08	廣石 勝司
経専 43	福井 方幹	学部 05	福地 茂雄	学部 08	外尾 勉
経専 43	増崎 昭夫	学部 05	藤井 美智子	学部 08	松井 有
経専 44	上田 昌良	学部 05	村田 茂己	学部 08	三浦 康寿
経専 44	江藤 馨	学部 05	山川 讓	学部 08	宮永 一之
経専 44	小林 正一	学部 05	山田 道弘	学部 08	牟田 辰雄
経専 44	下川 敏之	学部 06	入佐 輝男	学部 08	米良 康二
経専 44	角田 俊介	学部 06	音井 邦智	学部 08	毛利 寿男
経専 44	高石 洋一	学部 06	川島 勉	学部 08	森田 弘昭
経専 44	中尾 英二	学部 06	古賀 章生	学部 08	萬木 勇
経専 44	根岸 寛	学部 06	中村 巖太郎	学部 08	山口 信明
経専 44	八幡 武一	学部 06	福井 弘志	学部 08	山口 康夫
経専 44	山田 典弥	学部 06	藤 俊伸	学部 08	山田 勝
学部 01	碓 毅	学部 06	藤田 淳司	学部 08	米丸 昭夫
学部 01	岡川 峻也	学部 06	三根 吏	学部 09	石原 芳昭
学部 01	桂 茂之	学部 06	村上 文夫	学部 09	伊津野 平
学部 01	高橋 完	学部 06	森山 武重	学部 09	大久保 哲夫
学部 01	友成 和康	学部 06	山下 正治	学部 09	小川 渚
学部 01	松浦 謙二	学部 06	吉武 幸雄	学部 09	川崎 弘
学部 01	松岡 眞男	学部 06	吉野 岑生	学部 09	北村 義三
学部 02	岩永 寿郎	学部 07	井手 正俊	学部 09	木村 耕三
学部 02	柄本 貞丸	学部 07	蔵屋 勝敏	学部 09	小淵 繁利
学部 02	仮戸 健	学部 07	副島 邦雄	学部 09	佐藤 徹
学部 02	小林 茂男	学部 07	堤 昇	学部 09	高瀬 健二
学部 02	徳本 雄一郎	学部 07	寺田 政輝	学部 09	田中 明久

## 平成29年度会費納入者一覧 (敬称略) 会費納入いただきありがとうございました。

(平成30年1月末時点)

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
学部 09	辻 敏彦	学部 12	岩崎 慎一	学部 15	河野 正一
学部 09	外尾 仁	学部 12	岩下 芳和	学部 15	佐々木 和行
学部 09	増永 邦彦	学部 12	内野 鐵平	学部 15	西川 元禧
学部 09	宮川 弘	学部 12	岡本 信雄	学部 15	橋本 貞夫
学部 09	山下 勉	学部 12	川口 恒夫	学部 15	平川 文彦
学部 10	綾部 神六郎	学部 12	川添 英孝	学部 15	堀居 堅
学部 10	一ノ瀬 正喜	学部 12	岸川 博	学部 15	榎本 和裕
学部 10	一ノ瀬 義之	学部 12	高本 正	学部 15	山田 博
学部 10	井元 明暢	学部 12	迫本 正記	学部 16	上野 昭男
学部 10	江口 繁唯	学部 12	澤部 壽孫	学部 16	大塚 保
学部 10	江口 健	学部 12	園田 明	学部 16	谷 雅陽
学部 10	岡藤 幸策	学部 12	高岡 芳徳	学部 16	中島 純忠
学部 10	小川 俊明	学部 12	角田 啓爾	学部 16	中山 作富
学部 10	甲斐 正郎	学部 12	永柄 賢次	学部 16	林 史隆
学部 10	柿木 哲郎	学部 12	中川 義文	学部 16	東 幸彦
学部 10	梶山 正博	学部 12	中島 明	学部 16	藤田 優
学部 10	北島 真大	学部 12	永富 洋二	学部 16	前田 正昭
学部 10	許斐 幹彦	学部 12	西 宏	学部 16	村高 誓司
学部 10	貞方 士郎	学部 12	野中 茂美	学部 16	山内 裕介
学部 10	高嶺 朝映	学部 12	野村 方昭	学部 17	内田 重樹
学部 10	竹崎 勲	学部 12	橋本 正道	学部 17	小関 尚英
学部 10	多田 紀行	学部 12	平野 勝利	学部 17	草野 耕二
学部 10	中尾 全宏	学部 12	藤井 健二	学部 17	荘 敏幸
学部 10	中川 健治	学部 12	堀田 鉄郎	学部 17	田口 弘
学部 10	原田 信男	学部 12	吉山 一夫	学部 17	福本 健児
学部 10	藤松 謙治	学部 13	石川 謙	学部 17	藤井 吉弘
学部 10	本多 昌幸	学部 13	大隈 征次郎	学部 17	藤田 基
学部 10	光永 久之	学部 13	熊野 東男	学部 17	見崎 俊輔
学部 10	宮本 祥行	学部 13	佐々木 浩	学部 17	宮本 敏之
学部 10	屋敷田 賢作	学部 13	佐多 直治	学部 17	森田 和臣
学部 10	山道 勲	学部 13	柴田 清広	学部 18	有富 武司
学部 10	吉村 秀雄	学部 13	中村 正克	学部 18	伊藤 正道
学部 11	石田 昌吉	学部 13	東島 靖人	学部 18	井原 弘道
学部 11	國分 啓司	学部 13	平川 秀人	学部 18	内島 一嘉
学部 11	小林 憲正	学部 13	松尾 信孝	学部 18	柿田 寛
学部 11	七里 克典	学部 13	間瀬 惟夫	学部 18	小倉 孝司
学部 11	篠永 勝利	学部 13	彌富 克彦	学部 18	柿田 寛
学部 11	城 善政	学部 13	吉川 優	学部 18	重松 義章
学部 11	辻田 浩康	学部 14	伊東 義人	学部 18	高橋 道雄
学部 11	徳久 忠正	学部 14	上村 伍朗	学部 18	田中 洋
学部 11	長野 英明	学部 14	内野 武夫	学部 18	塚本 徳男
学部 11	西尾 智博	学部 14	大平 信幸	学部 18	徳重 克己
学部 11	橋口 典生	学部 14	黒山 久章	学部 18	永田 勇夫
学部 11	原岡 宏	学部 14	後藤 純郎	学部 18	中野 栄次
学部 11	松尾 晋	学部 14	重藤 和基	学部 18	橋口 孜
学部 11	松尾 重徳	学部 14	十亀 祥晃	学部 18	溝田 信太郎
学部 11	丸本 雄三	学部 14	平石 信久	学部 18	森 幸雄
学部 11	三谷 彬明	学部 15	足立 鉄生	学部 18	森部 良広
学部 12	出原 延明	学部 15	海野 尚武	学部 18	山野 澄雄
学部 12	稲山 清紀	学部 15	川寄 滋	学部 18	吉田 一久

## 平成29年度会費納入者一覧 (敬称略) 会費納入いただきありがとうございました。

(平成30年1月末時点)

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
学部 19	井上健一郎	学部 23	林俊也	学部 31	釜我利彦
学部 19	江川次雄	学部 23	松尾肇	学部 31	岸川泉
学部 19	江崎秀昭	学部 23	満崎周夫	学部 31	原田稔
学部 19	片山保	学部 23	渡辺一博	学部 31	山岡千秋
学部 19	酒井哲	学部 24	井上隆	学部 32	稲富路生
学部 19	薩本猛夫	学部 24	恵崎隆彦	学部 32	神田修
学部 19	菅原義文	学部 24	甲斐田雄三	学部 32	森日出樹
学部 19	田中義和	学部 24	金野正英	学部 33	新野由和
学部 19	中平政広	学部 24	中村博	学部 33	古野真一郎
学部 19	中村光昭	学部 24	野見山隆志	学部 33	村上康弘
学部 19	松原広輝	学部 24	畑野耕逸	学部 34	赤木浩一
学部 19	矢野博文	学部 24	本多正明	学部 35	荒嶽敏幸
学部 19	山野セツ子	学部 24	水野正嗣	学部 35	安野倫男
学部 20	井口篤子	学部 24	山本洋市	学部 35	白居のぞみ
学部 20	河野泰樹	学部 24	吉田均	学部 35	鋤田保智
学部 20	坂本茂美	学部 25	上田直	学部 35	波戸省子
学部 20	佐藤芳和	学部 25	宇野芳晴	学部 35	堀田毅
学部 20	武野勝次	学部 25	小城政文	学部 35	山崎慶子
学部 20	千原篤	学部 25	中尾宏幸	学部 35	居川浩嗣
学部 20	橋本俊介	学部 25	松下康幸	学部 36	市田孝二
学部 20	浜田敬厚	学部 25	三木修	学部 36	井上順二
学部 20	藤川勉	学部 25	三石信志	学部 37	窪田昌洋
学部 20	藤野進	学部 25	宮川博幸	学部 38	堤洋一郎
学部 20	松本康	学部 25	宮崎一郎	学部 39	村田瑞枝
学部 21	井上直樹	学部 26	池田健太郎	学部 40	小山貴子
学部 21	岩倉史佳	学部 26	寺園芳郎	学部 40	深堀健一
学部 21	内田恒夫	学部 26	野口弘	学部 41	今橋義孝
学部 21	小野等	学部 26	松村弘	学部 42	加々山亮介
学部 21	佐藤育夫	学部 27	窪田完二	学部 44	古川朋博
学部 21	田中健一	学部 28	今泉一隆	学部 45	小野正芳
学部 21	内藤幸雄	学部 28	原田主税	学部 49	辻昭太
学部 21	西岡一徳	学部 28	福田和太	学部 53	堀田幸司
学部 21	原賀寛	学部 28	古瀬稔	学部 54	金澤孝典
学部 21	百武兼義	学部 28	山中虎男	学部 56	後藤克仁
学部 21	平山修	学部 29	河内優子	学部 63	西窪浩祐
学部 21	福永青磁	学部 29	國廣昭彦	大学院 16	中村奈美
学部 21	的場豊	学部 29	白浜光治		
学部 21	南隆一	学部 29	藤田克子		
学部 21	吉田綱一郎	学部 29	村上真由美		
学部 22	有馬慎太郎	学部 29	吉開孝人		
学部 22	井上正則	学部 29	渡邊俊介		
学部 22	川内静久	学部 30	今福雅彦		
学部 22	坂本修一	学部 30	大賀雅徳		
学部 22	服部高行	学部 30	梶田伸哉		
学部 22	宮本貫治	学部 30	工藤正男		
学部 23	荒川克彦	学部 30	夏迫清治		
学部 23	烏山亮二	学部 30	野中秀樹		
学部 23	小泉文則	学部 31	井上勝康		
学部 23	篠塚昭博	学部 31	江原武志		
学部 23	中西新一	学部 31	金丸逸郎		

平成29年度支部への寄付者御氏名

(平成30年1月末時点)

卒回	お名前
学部01	岡川 峻也
学部03	三田村 博生
学部05	山田 道弘
学部06	藤田 淳司
学部09	川崎 弘
学部10	中尾 全宏
学部11	城 善政
学部12	澤部 壽孫
学部17	福本 健児
学部18	中野 栄次
学部21	吉田 綱一郎
学部22	坂本 修一
学部23	小泉 文則
学部23	渡辺 一博
学部24	本多 正明
学部28	山中 虎男
学部31	金丸 逸郎
学部35	臼居 のぞみ
学部38	堤 洋一郎
学部45	小野 正芳

(敬称略)

ご寄付いただきありがとうございました。

慶 弔

「東京瓊林 145 号（平成 29 年 3 月）」の発行後、次の方々の訃報に接しました。  
 謹んでご冥福をお祈りいたします。

卒回	お名前		ご逝去日
・高商 31	多奈部 禮次郎	様	H29.5.1
・高商 32	高橋 義人	様	H28.10.5
・高商 32	丸亀 継市	様	H29.12.5
・高商 33	三浦 實夫	様	H29.6.10
・高商 33	徳永 精作	様	H28.11.27
・高商 37	児玉 栄太郎	様	H28.12.21
・高商 37	松岡 幸介	様	H29.8.22
・経専 38	橋本 正義	様	H28.1.7
・経専 41	加藤 一徹	様	H27.6.14
・経専 42	梅山 麗司	様	H28.12.1
・経専 44	小田原 正稔	様	H26.10.4
・経専 44	戸次 幸雄	様	H29.7.16
・学部 03	鶴田 桂悟	様	H29.11.26
・経専 39	長谷川 憲志	様	H30.1.7
・学部 01	柳 保	様	H29.8.31
・学部 01	辻 畔	様	不明
・学部 03	近藤 久勝	様	H29.3.1
・学部 03	渋谷 希樹	様	H29.9.24
・学部 04	青山 茂昭	様	H29.8.1
・学部 05	清水 淳二	様	H28.12.4
・学部 05	西 修	様	不明
・学部 07	津田 兼克	様	H29.6.5
・学部 09	杉田 一治	様	H29.5.1
・学部 10	湯藤 英俊	様	H29.6.20
・学部 12	吉山 一夫	様	H30.2.14
・学部 14	川久保 寛	様	H29.4.12
・学部 16	野口 定男	様	H29.2.12
・学部 17	森田 和臣	様	H29.8.24
・学部 20	井口 広志	様	H29.7.30
・学部 23	中西 新一	様	H30.1

## H30 年度東京支部収支予算 (案)

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

単位：円

科目	H28 実績	H29 予算	H30 予算案	対 H29 予算	H29 年度備考
年会費収入	1,444,000	1,600,000	1,700,000	106.3%	425 名(学部卒のみ)
総会収入	679,000	650,000	670,000	103.1%	有料参加者 100 名(男 90 女 10)
寄付金収入	301,566	350,000	350,000	100.0%	
広告収入	100,000	0	50,000		会報誌広告
賛助金収入	273,895	275,000	285,000	103.6%	会議室利用料
預金利息収入	10	10	10	100.0%	
雑収入	6,290	0	0		
会合費	62,000	70,000	100,000	142.9%	東京瓊林サロン参加費
当期収入合計	2,866,761	2,945,010	3,155,010	107.1%	
総会費	915,040	750,000	750,000	100.0%	参加者 100 名+会場・補助(+10 万円)
会報費	257,137	400,000	300,000	75.0%	支部会報 1 回制作、封筒作成
研究会費	75,924	80,000	50,000	62.5%	会館でのミニ講演
業務委託費	500,000	500,000	500,000	100.0%	
会合・行事費	31,853	50,000	100,000	200.0%	役員会・合同幹事会・イベント等経費
通信費	286,958	300,000	450,000	150.0%	会報発送費 1 回 25 万円 x 1 回
旅費交通費	175,504	170,000	170,000	100.0%	通勤費、支部長他出張
光熱水費	288,448	290,000	0	0.0%	電気、水道
振替手数料等	29,678	30,000	30,000	100.0%	年会費徴収費用
修繕費	0	100,000	50,000	50.0%	室内・什器等の補修
事務用品費等	154,727	180,000	180,000	100.0%	コピー用紙、インク等・コピー機リース料
印刷費	60,000	60,000	60,000	100.0%	会報同封ハガキ印刷等
雑費	165,794	50,000	50,000	100.0%	ゴルフ・NME 補助・維持管理費
当期支出合計	2,941,063	2,960,000	2,690,000	90.9%	
当期収支差額	(74,302)	(14,990)	465,010		

## 【特別な承認伺い】

・総会会場及び参加者の確保のため、パーティには参加費を、その他(会場・催し)には別の費用を充てる必要がある。この分の支出を H27 年度から総会費には見込んだ。今後も継続。

通信費は、会報送付料金が大幅値上げ、有料インターネット使用料、受取人払い葉書料金も含む。

・光熱費、家賃は(公社)瓊林会の負担となったが、その対価を支払う必要が見込まれるが、金額が未定のため、予算計上をしていない。

## 瓊林会東京支部 役員体制

平成29年6月より、下記役員にて、東京支部の運営を行っております。  
 「人の集まりやすい支部へ」「東京支部活性化」を目指して、活動しています。  
 今後とも、皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。

役職名	氏名	卒回
支部長	田中 健一	学部21回
副支部長	吉田 綱一郎	学部21回
副支部長	梶田 伸哉	学部30回
副支部長	安野 倫男	学部35回
副支部長	堀田 毅	学部35回
副支部長	中村 奈美	学部51回
事務局長	百武 兼義	学部21回
監事	三木 修	学部25回

## 事務局からのお願い

### 同窓会会費の納入のお願い

2020年度会費の振込票を同封しております。(銀行引落としの方は除く)

同窓会は、会員の皆様方の会費で運営されております。できるだけ多くの会員の皆様にご支援いただければ円滑な運営につながります。

「人の集まる」魅力的な同窓会を目指して活動してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

次年度の活動計画作成のため、できましたら、2020年12月末までに納入頂ければ幸いです。

#### 【会費額／振込先】

会費：学部卒7000円(内訳：本部(公益)3000円+支部4000円)

振込先：郵便振替口座 00160-2-15617

※同封の振込み用紙をお使いください。

### 諸事項の登録について

瓊林会東京支部では、ホームページを開設しています。

トップページの右側に配置されている、『会員登録』のボタンを押すと、瓊林会会員移動報告兼登録の欄が出てきますので、まだ会員登録、移動報告、Eメール登録をされていない方はご登録よろしくお願いたします。

また、同期生の方々の情報をお持ちでしたら、お寄せ下さい。

### 東京瓊林への投稿のお願い

次号会報に掲載する投稿記事を募集いたします。同期会の報告、旅行記、雑学、趣味(絵画、写真、短歌、俳句、川柳)などジャンル、テーマは何でも結構です。

#### 【東京瓊林 投稿記事募集要項】

- ・投稿記事は400字詰の原稿用紙10枚以内(ワード文書ではA4用紙で4枚程度)でお願いいたします。
- ・写真も添付があれば歓迎です。(1~4枚程度/文字を含めA4用紙4枚に収まるようでしたら、制限枚数を超えても差し支えありません。)
- ・短い記事も、もちろん歓迎です。
- ・返送は致しませんので、写真や絵画などの作品を投稿する場合は、データもしくは複製でお願いいたします。

※レイアウト及び掲載内容・画像などは、編集上、変更する場合があります。

会報は2021年3月までに編集を行いますので、投稿の締め切りは2021年1月末日とさせていただきます。



# 岡三証券株式会社

創業大正 12 年 4 月

本社：東京都中央区日本橋室町 2 丁目 2 番 1 号

電話：(代表) 03 - 3272 - 2211

田中健一	学 2 1	国広昭彦	学 2 9
小坂真一	学 5 0	鼻崎雄治	学 5 2
金澤孝典	学 5 4	松田 優	学 5 7



株式会社 ONE HUNDRED

ホームページの制作からチラシ、パンフレット、冊子作成、ライティングまで。  
制作物に関することはなんでもお任せください。

〒 150 - 0045

東京都渋谷区神泉町 7 - 6 芦沢ビル 2F

電話：03 - 6809 - 0120

## 東京瓊林 広告掲載募集

A 4 サイズ 全ページ	カラー 4 万円
(ただし、裏表紙裏は 5 万円)	
A 4 サイズ 半ページ	カラー 2 万円
A 4 サイズ 1/4 ページ	カラー 1 万円

勤務先の会社広告、同期会の案内、出身クラブの会合の案内等にご利用いただければと思います。  
掲載のご依頼、広告データ送付の締め切りは 1 月末日とさせていただきます。  
お申込み、お問合せは事務局までお願いいたします。

## 表紙紹介

### 「長崎の夜景」

表紙の写真は長崎の夜景を選びました。2012年に世界新三大夜景として認定されて以来、絶大な人気を誇っています。今回は稲佐山頂上から2019年11月11日17時58分のベストタイミングで撮影されました。長崎の街が過去の賑わいを失っていく中でも、この美しい景色が是非とも続いて欲しいものです。

因みに、本写真は学14 安田 正秀 様から提供を受けました。今後も、東京瓊林の表紙を飾る素晴らしい写真・絵画等を、皆様方から提供して頂ければ幸いです。

## 編集後記

会報を通して同窓会活動に興味を持たれ、東京瓊林サロン・ゴルフ大会等々にご参加頂ければ幸いです。

今回発行の148号は、東京瓊林サロンの講演内容や友の会・囲碁会・俳句会等の活動内容を掲載しております。引き続き幅広い年代の会員様から、さまざまなジャンルの投稿をお願いできればと思います。

この会報作成にご支援・ご協力いただいた皆様方へ感謝申し上げます。

編集担当 小野 等 (学21)

## 東京瓊林 147 号

2020年3月31日発行

発行所：瓊林会東京支部

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-10-2

編集者：小野 等 (学21)

長崎県東京産業支援センター 301

誌面作成・デザイン：

電話：03-6240-0352

株式会社 ONE HUNDRED

FAX：03-6240-0531

E-mail: [info@tokyo-keirin.jp](mailto:info@tokyo-keirin.jp)

facebook: <https://www.facebook.com/keirinkaitokyo/>

ホームページでは、東京瓊林ゴルフ大会開催等のご案内をしております。  
内容充実も今後図ってまいりますので、ぜひアクセスください。



瓊林会 東京支部